

野口英世 記念会報

第 66 号



目次

巻頭言	1
第63回野口英世記念医学賞	2
第63回野口英世記念医学賞を受賞して	4
野口英世記念奨学生	8
第26回野口英世博士顕彰記念少年科学賞	12
野口英世博士顕彰記念事業	13
第59回野口英世博士顕彰記念作文コンクール	14
感染症世界大流行	17
第19回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」	22
25年目の家族写真	24
未来に生きる子供たちへのエール	26
野口英世記念館の動向	30
自動券売機導入	
囲炉裏の煙で生家燻蒸	
新型コロナウイルス感染拡大予防のため臨時休館	
野口英世渡米120年記念特別展開催	
緑の少年団より花苗寄贈	
緊急特別展「感染症世界大流行の歴史」開幕	
救世観音祭礼	

初のナイトミュージアム開催	
野口英世博士第144回誕生祭	
野口英世記念館で年中行事	
新撮影スポット設置	
疫病退散！大型赤べこ展示	
SDGsへの取り組み	
各地で行われたイベント	36
第4回いなわしろフェスティバル秋	
道の駅で記念館をPR	
出前授業に行きます！	37
令和2年度の受け入れ資料	41
令和2年度 主な行事	42
令和3年度 主な行事予定	43
出前授業のご案内	43
野口英世記念会寄付のお願い	44
野口英世記念館案内	

表紙 ライトアップされた生家
裏表紙 休館中の展示室を彩るステンドグラス

巻頭言

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、わたしどもも激動の日々を過ごしました。

令和2年1月16日にわが国の第1号患者発生が公表された時も、新型コロナウイルス感染症患者を乗せたダイヤモンド・プリンセス号が横浜港の埠頭に接岸したニュースをTVで見た時も、さらには、武漢から同胞を乗せたチャーター機が次々と羽田空港に着陸するのを見た時も、正直、どこか他人事のように、身近な出来事とは思っていませんでした。

しかし、3月に入ると状況が一変し、記念館への入館者が急速に減り始め、理事会・評議員会も書面審査となりました。4月初旬には緊急事態宣言が出され、記念館は4月11日から5月24日まで臨時休館をしました。

令和2年度の記念館への入館者数は前年度の入館者数（173,648人）の49%減となりました（令和3年1月末日現在）。しかし一方において、修学旅行で記念館に来館した学校数は前年度の495校の1.3倍の642校でした。首都圏への修学旅行を会津方面に変更した栃木県や青森県からの来館が増えた結果です。それに伴い、出前授業も昨年度の126校から155校と、新型コロナウイルス感染症流行の渦中であることを考えると大幅に増えました。私どもの理念である「野口英世の科学者としての生涯と業績を次世代に伝える」絶好のチャンスであると捉えて、役職員一同、全力で対応しました。

とはいえ、今後入館者数がV字回復することは難しいと考えます。7月に、本間稔事務長が着任されたのを契機として、館長、事務長ともども、コロナ後の記念館の「あり様」として、「感染症ミュージアムの創設」、「デジタルミュージアムの導入」などのアイデアを軸に、議論を始めております。

今後とも皆さまのご支援、ご協力を賜りながら、公益財団法人野口英世記念会の発展に、全力を尽くします。

令和3年4月1日

公益財団法人 野口英世記念会

理事長 竹田 美文



第63回野口英世記念医学賞

野口英世記念医学賞は、野口英世博士が生前に行った研究に関係のある優秀な医学研究に対し、その功績を表彰するものです。

受賞者

大阪大学

免疫学フロンティア研究センター

微生物病研究所教授

医学博士 荒瀬 尚



荒瀬 尚 博士

研究課題

ペア型受容体を介した宿主-病原体相互作用の解明

研究業績概要

免疫システムは、病原体による感染症を防ぐための生体防御システムであり、病原体と共に進化してきたシステムだと考えられる。従って、免疫システムを理解する上でも、病原体を理解する上でも、免疫システムと病原体がどのような相互作用を持ちながら進化してきたかを明らかにすることが重要である。我々は、抑制化受容体と活性化受容体から成るペア型受容体が、病原体と共に進化してきたのではないかとの新たな仮説を立ててペア型受容体を介した宿主-病原体相互作用を研究してきた。

ペア型免疫受容体とは、活性化と抑制化の免疫受容体から成る一連のレセプター群であり、免疫細胞に広く発現し、免疫応答の制御に重要な機能を担っている。これらの活性化免疫受容体と抑制化免疫受容体はゲノム上で近接してクラスターになって存在し、何らかの進化的要因による遺伝子重複によって形成されたと考えられる(図1)。我々は、これらのサイトメガロウイルス感染細胞に発現するペア型免疫受容体の標的分子を同定することによって (Arase et al. Science 2002) 、

ア型免疫受容体はウイルスによる免疫逃避とそれに対抗する免疫システムの進化によって形成されたという独自の仮説を提唱した (Arase et al. Rev. Med. Virol. 2004)。我々はこの仮説に基づきペア型免疫受容体はヒトヘルペスウイルス6、7、8型 (Shiratori et al. J. Immunol. 2005)、単純ヘルペスウイルス (Sato et al. Cell 2008, Wang et al. J. Virol. 2009)、水痘帯状疱疹ウイルス (Suenaga et al. PNAS 2010; Suenaga et al. J. Biol. Chem. 2015) におけるペア型受容体とウイルス分子との相互作用に関与していることを明らかにしてきた。特に、単純ヘルペスウイルスや

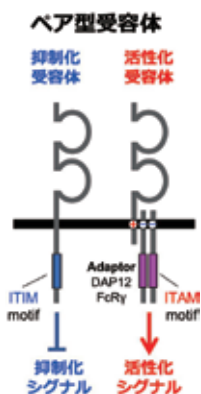


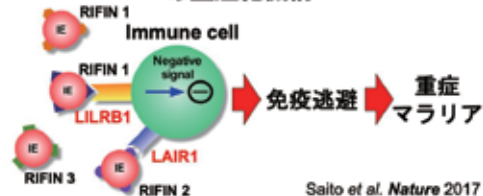
図1 ペア型受容体は相同性の高い細胞外領域を持っているが、正反対の機能の受容体群である。代表的なものとして KIR, LILR, PILR, LAIR, Ly49 等の受容体が知られている。

水痘帯状疱疹ウイルスでは、ペア型受容体がウイルス感染時の膜融合に重要な機能を担っていることを解明した。

マラリアは世界3大感染症の一つであり、依然として年間50万人が亡くなる。特に、3

大感染症の中では乳幼児の致死率が高く、現存する病原体の中で最も免疫システムの進化に影響を与えている病原体である。また、マラリアには何度も感染することから、獲得免疫ではマラリア感染を防ぐことはできず、マラリア原虫には何らかの免疫逃避機構が存在するものと考えられる。熱帯熱マラリア原虫は、赤血球に感染すると原虫由来の様々な分子を感染赤血球上に発現することから、マラリア感染赤血球もウイルス感染細胞と共通の特徴がある。そこで、ウイルスと同様にペア型抑制化受容体のリガンド分子が感染赤血球上に発現しているかを解析したところ、熱帯熱マラリア原虫の約150個から成る多重遺

ペア型抑制化受容体を介した熱帯熱マラリアの重症化機構



Saito et al. Nature 2017

図2 熱帯熱マラリア原虫は抑制化受容体を介して免疫応答を抑制し重症マラリアを引き起こす。

伝子 RIFIN がペア型抑制化受容体である LILRB1 や LAIR1 のリガンド分子になつていて、これを発見した。さらに LILRB1 結合性 RIFIN の発現がマラリア重症化と関連

があることが判明した。このように、ペア型抑制化受容体はウイルス感染ばかりでなく、熱帯熱マラリアの免疫逃避に重要な機能を担っていることが判明した(図2、Saito et al. Nature 2017)。

また、細菌感染においても、細菌にはプロテアーゼを産生して抗体を切断するという免疫逃避機構がある一方、切断された抗体を特異的に認識するペア型活性化受容体 ILRA2 を発見した。特に、細菌プロテアーゼによって切断された抗体が単球等の発現している ILRA2 を介して細菌を殺傷すること、さらに、感染患者の膿汁には切断された抗体が含まれ、ILRA2 刺激能があることが判明した(Hirayasu et al. Nature Microbiology 2016)。

このように、ILRA2 は免疫に重要な抗体が破壊されるという免疫システムには危機的な状況を検出して、生体防御を担う分子であることが判明した。

以上のように、我々は抑制化ペア型受容体は免疫応答の制御分子として重要な機能を担うばかりでなく(Shiratori et al. J. Exp. Med. 2004; Wang et al. J. Immunol. 2008; Wang et al. Nature Immunology 2012; Kuroki et al. PNAS 2014)、ウイルスやマラリア原虫の免疫逃避に利用され、感染症に重要な分子であることを明らかにしてきた。一方、活性化ペア型受容体の機能は依然として不明なものが多く、細菌によって切断された抗体を認識する受容体が存在するように、活性化ペア型受容体は生体防御に重要な機能を担っていると考えられる(図3)。

ペア型受容体を介した宿主-病原体相互作用

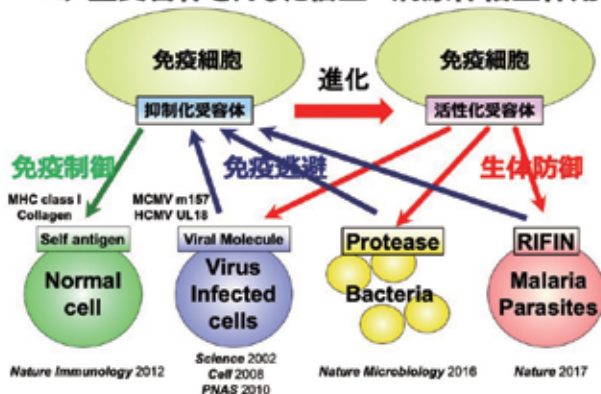


図3 ペア型受容体はウイルス、細菌、マラリア原虫等の病原体との相互作用によって形成された受容体であり、宿主-病原体相互作用に重要な機能を担っている。

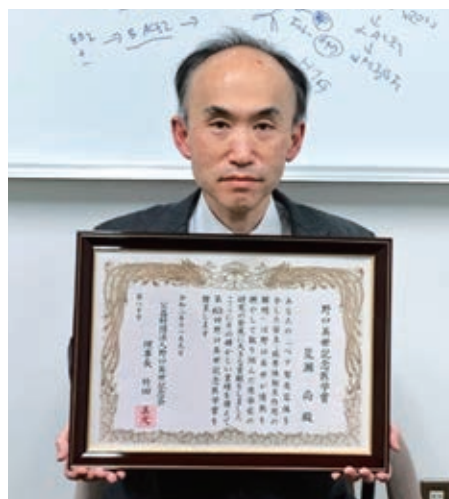
今後は、これらのペア型受容体と病原体の相互作用をさらに解析することで、免疫システムがどのようにペア型受容体を獲得したか、また、病原体がどのように免疫逃避機構を獲得したかが明らかになることが期待される。ペア型受容体には遺伝子多型が多いものが多く、病原体や免疫疾患の感受性に大きな影響を与えている可能性もある。抑制化ペア型受容体は、病原体ばかりでなく癌細胞もマラリア原虫と同じ抑制化受容体を免疫逃避に利用していることが明らかになってきた。したがって、これらのペア型受容体の機能を積極的に制御することで、感染症や癌に対する新たな予防法や治療法の開発が期待される。

第63回野口英世記念医学賞を受賞して

荒瀬 尚

この度は第63回野口英世記念医学賞受賞という栄誉を賜わり心より御礼申し上げます。長い歴史と権威ある賞を受賞し、身にあまる光栄であります。これまで受賞された諸先輩の先生方のお名前を拝し、末席に加えていただきましたことは、大きな責任を感じるとともに、身の引き締まる思いがいたしております。今回の受賞には、私とともに研究を進めてくれました研究室のスタッフ、ポスドク、大学院生、テクニシャン、そして、共同研究をしていただきました多くの先生方のおかげであり、ここに改めて深く感謝いたします。また、私を基礎医学研究の道に導いてくれた大学院博士課程の指導教官だった小野江和則教授、大学院修了後から独立するまで指導していただきました斉藤隆教授、そして、留学先の Lewis Lanier 教授には、研究に関して多くのことを学ばせていただき、この場を借りて深く御礼申し上げます。また、今回の受賞に際して御推薦いただきました大阪大学免疫学フロンティア研究センター竹田潔拠点長に心より御礼申し上げます。

例年は猪苗代湖畔の野口英世至誠館で授賞



医学賞賞状を手にする荒瀬尚博士

式が行われるのですが、今回は新型コロナウイルスの感染拡大のために、大変残念ながら今年の授賞式は中止になってしまいました。感染症が日本の社会に与える影響がこれほどまでに大きいことは誰も予想していなかったかと思いますが、感染症研究の重要性が強く認識された歴史に残る年になってしまったかと思います。今回の授賞式までには、新型コロナウイルス感染が収束し、通常の授賞式が行われることを切に願っております。

私は、カーリングで有名になった北見市の出身で、冬は30度近くまで気温が下がると

ころです。寒い日では、枕元にあった水が朝起きると凍っていることもあるほか、外を歩くと鼻の中がパリパリする感じになります。また、私の頃は小学校でも児童がストーブの燃料のコークスを教室まで運ぶ時代でした。大学からは札幌に住みましたが冬は北見よりかなり気温が高いため、暖かく感じられたのを覚えております。このように北見は寒いところではありますが、冬休みにはほぼ毎日スキーに行けましたし、夏もそれほど暑くなく、自然に恵まれた住みやすい街だと思っています。

私は、将来、特に医者になりたいというよりは、医学に関連した研究をしたくて北海道大学の医学部に進学いたしました。ところが、医学部の授業は基本的に覚えることがほとんどで、何か新しいことを見つけ出す様な研究に関わるようなことはありませんでしたし、当時は基礎配属の様な基礎研究に触れるカリキュラムもありませんでした。覚えるだけの授業に飽きていた頃、免疫科学研究所（現在の遺伝子病制御研究所）の小野江和則教授が学生向けの免疫学の勉強会を開催し、希望者には研究室で実験もさせてもらえるという噂



スキーを楽しむ荒瀬尚博士（2020年1月 軽井沢）

チユラルキラー細胞のマーカーを持ったT細胞があることを見出しました。胸腺細胞はほとんどが未熟なT細胞ですが、成熟T細胞と比べても強力なサイトカイン産性能と非常に片寄ったT細胞受容体のレパートリを持ったT細胞でした。現在ではNK細胞と呼ばれるようになった細胞ですが、当時はその機能や認識機構は全く明らかでなかったため、我々はNK細胞のマーカーであるNKT-1を発現してことからNKT-1陽性T細胞と名付けて、いろいろ試行錯誤しながらこのユニークなT細胞の解析を行いました。

を聞き、私も参加させてもらいました。このように、私が免疫の研究をすることになったのは、小野江教授が企画していた勉強会に偶然にも参加したからであり、特に免疫学に興味があったわけではありませんでした。当時まだ珍しかったフローサイトメーターが導入されたばかりの時期で、電気や機械が好きだった私としては、おもちゃの様にフローサイトメーターを使わせていただき、解析法の改良しながらリンパ球の解析をしたりしておりました。

1990年に卒業後は、臨床の研修もせず、すぐに小野江教授の研究室の大学院に進学しました。大学院では骨髓移植マウス等を用いて胸腺細胞の分化などをフローサイトメーターを用いて解析しました。その結果、胸腺細胞の中に通常のT細胞とは異なるナ

博士取得後は当時千葉大学医学部高次機能制御研究センターにおられた斉藤隆教授（現理化学研究所生命医科学研究センター）の助手に採用していただきました。斉藤教授はT細胞受容体のシグナル伝達の第1人者で、当時まだ珍しかったノックアウトマウスを用いてT細胞受容体のシグナル伝達機構を解析しておりました。斉藤教授の元でも引き続き、NK細胞の研究を続けていただき、小野江教授の元で習得した細胞性免疫の解析に分子生物学的な実験手法を取り入れて研究を行いました。特に、ノックアウトマウスを用いてNK細胞の機能解析やシグナル伝達機構の解析を行った他、cDNAライブラリーを用いた新たな発現クローニングシステムを樹立してNK細胞やNK細胞のシグナル伝達機構の研究に取り組みました。

2000年の夏からは、NK細胞によるウイルス感染細胞等の認識機構を解明するためにNK細胞の世界的第一人者であるサンフランシスコにあるUCSFのLewis Lanier教授の元へ留学いたしました。サンフランシスコに住んでみてまず驚いたのは、サンフランシスコは年中暖かいというイメージがありますが、北海道の夏より寒いことでした。特に、UCSFのあたりは霧がかかりやすく夏でもセーターが欠かせない一方、冬は大阪より暖かいという気候です。NK細胞はサイトメガロウイルスの感染防御に重要な機能を担っていることが知られておりましたが、その認識機構は不明でした。そこで、NK細胞によるサイトメガロウイルス感染細胞の認識機構の研究に取り組みました。その結果、マウスのサイトメガロウイルスのMHCクラスI様分子であったm157というウイルス分子には、感染感受性のマウスの系統のNK細胞が発現する抑制化受容体に結合して免疫応答を抑えるという免疫逃避機構があることを見出しました。一方、感染抵抗性のマウスの系統では、m157が結合する抑制化受容体を持つておらず、m157を認識する活性化NK細胞受容体によって感染細胞を攻撃することを発見いたしました。この発見により、初めてNK細胞によるウイルス感染細胞の認識機構が明らかになり、現在でもNK細胞の研究には欠かせない研究基盤となっております。またNK細胞

胞は様々な受容体を発現しておりますが、病原体との相互作用によって、細胞受容体が形成された可能性を示唆した研究でもあります。

2年間という比較的短い留学生活ですが、日本とは異なる研究環境や文化に接することができ大変有意義でした。最近、留学する人が減っておりますが、一度は日本を離れて研究に取り組むのも大変有意義だと思います。ただ、サンフランシスコのように外国人が多い都市では、下手な英語でも問題なく通じてしまうので、積極的に英語を上達しようとしなければ英語は全く上達しないことがわかりました。

2002年に千葉大学の斉藤教授の研究室に戻りましたが、ちょうどその頃公募していた竹田美文理事長（当時実践女子大学教授）が研究総括をされていた科学技術振興機構PRESTO「生体と制御」に応募したところ、幸運にも採択していただきました。この研究班では年2回報告会があり、研究総括をはじめアドバイザーの先生方には、多くの貴重なお助言をいただいたとともに、同世代の微生物研究者や免疫研究者との意見交換ができ、大変有意義なものでした。実際、この研究班の先生方はPRESTO終了後も多くの共同研究をさせていただき、本受賞研究もこれらの共同研究の成果であります。



研究室での荒瀬尚博士

2004年に大阪大学微生物病研究所で独立助教授として研究室を担当させていただく機会を得ました。また、2007年には世界トップレベル研究拠点として免疫学フロンティア研究センターが設置され、非常に恵まれた環境の下で病原体と免疫システムとの相互作用の研究に取り組みました。特に、ウイルスの抑制化受容体を介した免疫逃避機構と活性化受容体を介した感染防御機構に関する研究を行いました。その結果、白鳥助教によってヘルペスウイルス6型、7型、8型にも抑制化受容体を介した免疫逃避機構が明らかになりました。また、佐藤助教や末永准教授によって単純ヘルペスウイルスや水痘帯状疱疹

ウイルスでは、エンベロープ分子が抑制化受容体と結合するだけでなく、抑制化受容体と結合することによって膜融合を引き起こして細胞へ侵入するという全く新たなウイルスの感染機構が明らかになりました。また、細菌についても同様な受容体との相互作用について解析を進めた結果、平安特任助教が細菌の産生するプロテアーゼには抗体を切断するという免疫逃避機構がある一方、切断された抗体を特異的に認識して細菌を攻撃する新たな生体防御機構があることが発見いたしました。一方、マラリア原虫は赤血球に感染しますが、感染赤血球上に病原体由来の分子を発現させるという点では、ウイルスと同じような性質を持っています。そこで、ウイルスと同様な抑制化受容体を介した免疫逃避機構を解析した結果、齋藤特任研究員が熱帯熱マラリア原虫のREINというこれまで機能が未知だった分子は、サイトメガロウイルスや癌細胞が利用するのと同じタイプの抑制化受容体に結合して免疫応答を抑制し重症化を引き起こすことを見出しました。このようにマラリア原虫とサイトメガロウイルスという全く異なる病原体が、免疫逃避のために共通の抑制化受容体を利用することが判明しました。以上のように免疫、病原体の双方の側面から研究を進めることによって、今まで明らかでなかった免疫分子や病原体分子の機能を明らかになってきました。

新型コロナウイルスが重大な社会問題になっておりますが、同じウイルスに感染しても無症状の人が多くいるのにもかわらず、一部の人では非常に重篤な感染症を引き起こします。一方、重症化した人の遺伝子解析では明らかな重症化に關与する遺伝的素因は報告されておりません。従って、新型コロナウイルス感染症の重症化は、ウイルス側の要因と免疫応答を含めて様々な要因とが複雑に相互作用して引き起こされると思われます。また新型コロナウイルスは、様々な変異を獲得して次第にヒトに対する感染性が高くなるウイルスですので、将来的に新型コロナウイルスがワクチンに抵抗性の変異を獲得する可能性も考えられます。従って、新型コロナウイルスの重症化の予防法や治療法の開発や、今後さらに増えることが予想される変異株に対応したワクチン開発にも、ウイルス側、免疫側双方からの研究が必須だと思われれます。我々も喫緊な課題として新型コロナウイルスの重症化のメカニズムの解明に取り組んでおります。

また、病原体は感染症を引き起こすだけでなく、自己免疫疾患等の免疫異常を引き起こす可能性が考えられています。実際、風邪の様な症状が見られた後に自己免疫疾患が発症する場合も知られておりますが、そのメカニズムは明らかになっておりません。宿主の遺

伝的要因としては、多くの自己免疫疾患において免疫応答の中心分子であるHLA（ヒト白血球抗原、もしくは、MHC：主要組織適合性遺伝子複合体）の遺伝子多型が最も強く關与していることが知られておりますが、疾患に対するリスクが高いHLAの遺伝型を持つていてもほとんどの人が発症しません。HLAの遺伝子多型自体が感染症によって形成されたと考えられておりますが、自己免疫疾患の発症にはHLAという遺伝的要因に何らかの感染症が組み合わさって発症するものではないかと考えております。従って、感染症ばかりでなく、自己免疫疾患の原因としての病原体の解析も今後さらに研究していければと思います。

私は、今まで、ウイルス、細菌、マラリア原虫、自己免疫疾患といった一見異なる分野の研究に取り組んできました。節操が無いとも思われるかもしれませんが、どの研究分野においても新しいことを発見するのは研究者にとつての最大の原動力であり、一番心が踊らされる瞬間でもあります。新たな発見を求めるために研究を続けているといっても過言ではありません。最近では研究者を志す学生さんが減ってきておりますが、誰もやっていないことに自由に取り組めるといのは、研究者の特権でもあります。研究者ほど夢のある仕事はありませんので、多くの若い人たちが

チャレンジ精神を大切にして感染症研究をはじめ研究者の道に進んでもらえればと心より願っております。

最後になりましたが、本賞選考委員会の先生方、そして野口英世記念会理事長の竹田美文先生をはじめ、本賞の準備して頂いた野口英世記念会の方々、ならびに猪苗代町の皆様には心より感謝を申し上げます。また、私が研究者になることを強く応援してくれた両親、そして日頃から研究生活を支えてくれている家族には心より感謝いたします。今後の野口英世記念会の一層のご発展を心より祈ります。どうも有難うございました。



研究室のみなさんと荒瀬尚博士

野口英世記念奨学生

野口英世記念奨学生制度は、有為な人材を育成し、良き社会人として世に送る目的で、高等学校に在学する間の学資金の給付を行う制度です。
令和3年度の第63期奨学生は、奨学生選考委員会の推薦を受け、10名に決まりました。新しい奨学生が、それぞれのすばらしい夢を綴ってくれました。

「将来の目標」

福島成蹊中学校

石原 いしはら

玲 れい



「人の命を救う職業に就きたい」。

そのように思い始めたのはおよそ十年前でした。私は小さい頃度々病気にかかって入院し、たくさん医師や看護師の方々にお世話になりました。当時の記憶は定かではありませんが、病室のベッドから見上げる白衣を着た人々に強い憧れの気持ちを抱いたことは鮮明に覚えています。私の今の目標は、医者になって、医療体制の整っていない貧しい地域で苦しむ人々を救うことです。かわいそうにと遠くから見ているのではなく、自分の手

「目標」

福島市立岳陽中学校

岩崎 いわさき

楓恋 かれん



私は、将来教師になりたいです。私は今中学三年生ですが、受験という壁は、自分に自信をもたないと乗り越えられないと思います。

当然ですが、自信をもつためには努力を積み

重ねることが必要です。私は、この「努力の仕方」を教えられるのが、教師ではないかと思っています。生徒に自信をつけられるような教師を志したいです。

その夢を実現させるために、高校生活では、学力向上に努めたいです。現在もっている検定の更なる昇格を目指したり、その他の検定に積極的に挑戦したりしようと思います。また、新しい環境での人との繋がりを大切にしていきます。人としての考えの幅を広げるためにも、新しく出会う人から、様々な考え方を吸収したいです。

以上のことを努力して、高校生活を充実させたいと思います。



「高校生活への抱負」

猪苗代町立猪苗代中学校

草野くさの 日向子ひなこ



私の高校生活の抱負は、様々なことにチャレンジすることです。

私は、新しいことに挑戦するのが苦手でした。そんな自分を変えたいと思い、中学校では生徒会長に立候補しました。生徒会長の仕事は忙しく、大変でしたが、行事の企画や運営など様々な活動をしていくうちに生徒会の仕事がとても楽しくなりました。生徒会長として過ごした中学校生活は、私にとってとても充実した思い出に残るものとなりました。

高校生になったら、このことを生かして、初めてのことにも積極的にチャレンジしていきたいと思います。今まで苦手だった、自分から人に声をかけることも挑戦していきたいです。新しい環境で不安になることもあると思いますが、中学校のときよりも、さらに楽しく、充実した学校生活を送れるようにしたいです。

「将来の夢」

猪苗代町立猪苗代中学校

小林こばやし 絵里えり



私の将来の夢は。福島県内の中学校の教員になり、剣道部の顧問として生徒を指導し、全国を制覇することです。そのために、福島県立白河高等学校に進学してがんばりたいことが二つあります。

一つ目は、学業です。国立大学に進学するために、毎日時間を決めて予習や復習を怠らず取り組みたいです。剣道と両立することは難しいかもしれませんが、辛いことから逃げることなく自分に厳しくしていきたいです。

二つ目は、部活動です。県内トップクラスである白河高校で稽古に励み、全国を制覇したいです。さらに、指導者になるための勉強として監督の先生の指導方法を自らの体験を通して学びたいです。

私の将来の夢を叶えるために高校三年間は文武両道に励み、大学に進学して、教育者として未来のある子ども達を育てたいです。

「夢への一歩」

猪苗代町立吾妻中学校

齋藤さいとう 瑳和さわ



私は四歳の頃、通っていた保育所の先生に憧れ保育士を目指すようになりました。幼児期は基本的習慣を身に付け、人間形成のための重要な時期です。とても責任ある仕事ですが、何度かボランティアに行き、二歳児が英語の歌を歌っているのに衝撃を受け、英語の楽しさも伝えられる保育士になりたいと強く思いました。また子供の食と栄養、医療保育専門士などについても詳しく学びたいと考えています。

夢を叶えるため、高校では英語の勉強にもより一層励んでいきたいと思っています。また部活動などを通してたくさんの人と関わり、子供達の個性を尊重し寄り添える保育士になるために人としても成長していきたいと思っています。野口博士のように、支えて下さる周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、日々努力をおしまず何事にも全力で取り組んでいきます。

「将来の夢と高校生活への期待」

郡山市立郡山第五中学校

桜田 さくらだ
千尋 ちひろ



私にはまだ、しっかりとした目標がありません。将来の夢は、獣医師や動物看護師などの動物に関わる仕事に就くことです。しかし、建築士やゲームクリエイターにも興味があり、自分の就きたい職業が中々決まらないので、高校で進路についてよく考え、自分に合った職業を見つけ、それに向かって頑張りたいと思います。しっかりとした目標を立て、意欲的に学習に取り組めるようにしたいです。

また、高校では、限りある時間の中で部活動をしたと考えています。スポーツが好きなので、運動部に入り、体を動かしたいです。

高校生活で、勉強と部活動を両立し、新しいクラスメイトや友達との思い出をたくさん作りたいです。さらに、いろいろな事に挑戦し、積極的に課題を追求して、自分の技術や能力を高めます。そして、充実した高校生活を送りたいです。

「将来の夢と高校生活の抱負」

川俣町立川俣中学校

高橋 たかはし
秀輝 ひでき



僕の将来の夢は、世界の人々と交流して活躍できる人物になることです。つきたい職業はまだ決まっていませんが、野口英世のように海外でもたくさんの成果を挙げ、世界に貢献できる人材に成長したいと考えています。

高校入学後はハイレベルな学習に挑戦して、新しいことや未知の分野を学ぶことを楽しみにしています。中学時代は、特に英語に力を入れてきました。二年生の時にシンガポールでの海外研修に参加し、英検二級を取得することもできました。海外で活躍するためにはまだ英語力が足りません。夢の実現のためにも、今まで以上に英語でのコミュニケーション能力を高めていきたいと思っています。

今一番大切なことは、志望する高校に合格することです。そのために、英世を見習いさらなる学力向上を目指して、寸暇を惜しんで努力を重ねていきたいと思っています。

「将来の夢の実現のために」

猪苗代町立猪苗代中学校

古川 ふるか
来実 くるみ



私の将来の夢は、まだはっきりとは決まっていません。ですが、公務員になることができればいいと考えています。

公務員になるためには、公務員試験を受験し、合格する必要があります。合格するためには、もちろん勉強をすることが重要だと思います。そのため、高校では授業で沢山の知識を身に付けていきたいと考えています。

授業だけではなく、クラスや学年の人達、先輩方とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思っています。

将来の夢を実現するために、高校では学業に励みながら、部活動や学校行事を楽しみ、充実した学校生活を送ることができればいいなと思います。

「これからの目標」

玉川村立玉川中学校

みずの
水野 伊音莉



私の将来の夢は、弁護士などの法律関係の仕事に就くことです。きっかけは社会科の公民の授業で法律の仕組みや司法権などについて学んだことで興味を持ち、そこに関わりのある「困っている人を助ける」仕事に魅力を感じたからです。私のこれからの抱負は、高校卒業後、将来の夢を叶えるため、法学部のある四年生国公立大学への進学や司法試験合格を目標に、「粉骨砕身」を座右の銘として、学業により一層精進していくことです。

また、様々な活動に積極的に取り組み、自身の成長につなげ、より良い成績を残せるように頑張っていきたいと思います。

そして、令和三年度野口英世記念奨学生としてお選び頂いたことに心から深く感謝申し上げます。これからはさらに努力を重ね、将来、地域社会に貢献していきたいと思っています。

「母に見せたい姿」

福島市立大鳥中学校

わたなべ
渡部 芹璃



私の将来の夢は小学校の先生になることです。小学校の先生になるために、充実した高校生活を送り、大学に進学したいと思っています。

勉強面では、今まで習慣として身に付けてきた予習、復習を継続していきたいと思っています。

また、私は十一年間表現するダンスを勉強してきました。そこで学んだコミュニケーション力を部活動や学校生活に生かしたいです。

私は高校生になるのが楽しみです。文武両道を目指して三年間を過ごし、自分の将来の可能性をさらに大きくし、社会に貢献できる人になりたいです。

奨学生に選んでいただきありがとうございます。母の負担が減ると思うと感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを忘れずに自分の成長に生かしたいと思っています。



第26回野口英世博士顕彰記念少年科学賞

野口英世博士生誕地猪苗代町の小中学校より募集する「野口英世博士顕彰記念少年科学賞」は第26回を数えました。
 今年は新型コロナウイルスの影響により夏休み期間が短縮される中での研究となりましたが、小学校157点、中学校11点、計168点の研究作品が出品されました

本年度の入賞作品は左記の通りです。おめでとうございます。

最優秀賞

どうして長瀬川は赤くなるのか〜最終章〜
 私の家は大丈夫??〜火山編〜

吾妻小 6年 鈴木 理心
 猪苗代中 2年 鈴木日奈子

優秀賞

タニシは みずを きれいにしてくれる?
 水の中のおもさ
 ゴムのけんきゅう☆どこまでのびるか?そしてどこまでひえるか☆

翁島小 1年 二瓶 千織
 千里小 2年 鈴木 創介

すごいぞアカハライモリ!
 進め!ポンポン船
 紫キャベツの指示薬を作り、近くの川を調べる

翁島小 3年 喜多見七葉
 猪苗代小 4年 五十嵐 諒
 翁島小 5年 楠 詠斗
 猪苗代中 1年 五十嵐史哉

佳作

いなわしろこのみずは どこが きれいなのか?
 川の水を しらべてみよう
 糸電話の実験
 ゴーヤの実の育ち方
 水質調査 猪苗代町の水はキレイなのか?
 風の力をさぐれ!〜空気ほうの風はどこまでとどくのか?〜
 猪苗代町のお米を調べよう〜ぼくたちが食べているお米〜
 コオイムシとの生活
 スライム作りをしよう!!
 家庭菜園からDNA? Part2〜くきや花びらからもDNAはとれるのか?〜

植物の成長方向の研究

翁島小 1年 澁川 遥叶
 翁島小 2年 山内 蒼翔
 猪苗代小 3年 杉原 蓮
 緑小 3年 小檜山大智
 翁島小 4年 佐藤 歩夢
 千里小 4年 吉田 真望
 緑小 5年 須田 斗翔
 長瀬小 5年 菅沼 凜
 翁島小 6年 五十嵐大朗
 長瀬小 6年 岩橋 菜乃
 吾妻中 1年 杉田 豊歩



猪苗代中学校 2年 鈴木日奈子さん



吾妻小学校 6年 鈴木理心さん

野口英世博士顕彰記念事業

野口英世生誕の地である猪苗代町では、町内の小・中学校の児童生徒が二十一世紀の国際社会において野口英世に続く日本人」になることを期待し、スポーツや文化事業を通じ、野口英世の精神である「忍耐・努力」を培うことを目的にした種々の顕彰記念事業を行っています。

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、残念ながら中学校球技大会と小学校スキー大会が実施できませんでした。しかし、それ以外の事業は様々な制限のある中、関係者の皆様のご尽力により無事に開催できました。事業に携わっていただいた全ての方々に感謝申し上げます。



小学校体育祭 2020年9月9日



小中学校音楽祭 2020年10月1日



小中学校音楽祭

第59回野口英世博士顕彰記念作文コンクール

野口英世のふるさと猪苗代町の小学校4年生と中学2年生を対象に募集を行う「野口英世博士顕彰記念作文コンクール」の授賞式が11月9日に行われました。

野口英世の生き方や考え方を学んだ児童生徒のみなさんが、これからの自分に活かしていこうと、自分と野口英世を関連付ける作品が多く寄せられました。授賞式では特選に選ばれた長瀬小学校4年野口大和さんと吾妻中学校2年の松本レイさんが受賞作品を朗読しました。

特選

ぼくもあきらめない

長瀬小学校 4年 野口 大和



ぼくのお母さんの実家は、野口英世記念館の近くにあります。毎年、お盆のお墓参りには、実家

のご先祖様の後に、必ず野口英世のお墓をお参りします。ぼくはいつも「家族がするから」という理由で手を合わせていました。でも、学校で野口英世記念館に見学に行ったり、お母さんに連れて行ってもらったりして、英世のことを少しずつ知っていくと、僕の心は変わっていきました。

英世は一才半のときに、左手に大やけどをしました。その左手のことで、友達にばかにされても、勉強に不べんであっても、家がますますして勉強が続けることがむずかしくなりそうな時も、英世はがんばり続けました。すぐにあきらめてしまうぼくには、がんばり続けることがどれだけ大変なところか、想像ができません。きつと、辛くて苦しいことがたくさんあって、負けそうになったこともあったと思います。でも、お母さんのシカさんや

野口英世博士に関する作文

〈小学校の部・第4学年〉

特選

ぼくもあきらめない

長瀬小 野口 大和

金賞

あきらめない

三つのおくりもの

研究の大切さ

銀賞

母シカの手紙と野口英世

努力した野口英世

目的・正直・にんたいの言葉をわすれずに

〈中学校の部・第2学年〉

特選

野口英世博士と私

金賞

野口英世との出会い

銀賞

愛情に生きた野口英世

「野口英世」と救われた人

猪苗代中 芥川 千佳

東中 長谷川小乃夏

猪苗代小 鵜川 嶺王

森 はな

五十嵐 諒

渥美 柊弥

古内 駿多

吉田 真望

吾妻小

松本 レイ

力になってくださった先生、友達など、たくさん
の人の支えと、何より、英世のあきらめずに夢を
かなえたいという強い気持ちがあったから、医者
になるという夢をかなえ、世界で知られるほどの
研究を成しとげることができたのだと思います。

ぼくは、そろばんを習っています。準四級から
正四級になるための検定試験で、自信があったに
もかわらず、まさかの不合格でとてもショック
でした。「今まで順調に一回で合格していたのに、
どうして落ちてしまったのだろう。」と、次に切り
かえることができずに落ちこんでいました。そん
な時、お母さんの実家に行くことがあり、窓から
記念館がみえました。そこで、英世の、
「志を得ざれば再びこの地をふまず」
という言葉思い出しました。

ぼくはその時、六年生までに一級に合格して段
位まで進みたいと、そろばんを始めた時に決めた
夢を思い出しました。くよくよしていた自分から、
英世のように夢をかなえるためにあきらめない強
い気持ちをもつ自分が変わろうと思いました。そ
れからくやしさをばねにして、失敗したところを
何回も練習し、次の試験にのぞみました。すると、
とても良い点数で合格することができ、ぼくはびっ
くりしました。そして、とび上がるほどうれしく
なりました。英世の言葉を思い出したことが良い
結果につながりました。

今年も、もうすぐお盆です。ぼくは今までと同
じように英世のお墓をお参りします。でも、家族
がするからではありません。「ぼくは六年生までに
必ず一級に合格します。」と手を合わせて英世に伝
えるためです。

「夢をあきらめない」

英世がぼくに教えてくれた大切な気持ちをしっか
りともって、前に進んでいこうと思います。

特選

野口英世と私

吾妻中学校2年 松本 レイ



私が住んでいる猪苗代町が生んだ、世界的な偉
人である野口英世博士。学校の課題で、博士のこ
とについて書くことになった私は、何をどう書い

たら良いか、かなり苦しかったです。自分とはあま
りにもかけ離れた存在なので、博士と何を比べた
らいいか、しばらく何も浮かばず、時間だけが過
ぎていきました。

私が今まで持っていた野口英世のイメージは、
「とても負けずぐらいで、人一倍努力家だった。」

ということでした。一例を挙げれば、一日わずか三
時間の睡眠時間で医者になるための勉強を、ある
いは伝染病の研究のための実験生活を、毎日毎日
続けていたことです。では野口英世は、なぜそこ
まで自分を追い込むような生き方ができたので
しょうか。

先に書いたように、まず一つは負けずぐらいな
性格だと思っています。それは、

「ナポレオンになしえられる努力が、自分になしえ
られぬはずがない。」

という、彼の言葉からもしっかり伝わってきます。
自分にできないことはない、という強烈な負けず
ぎらいの意志が、この言葉には込められていると
思います。

そしてもう一つは、常に高い目標を持ち続けて
いたことだと思います。医者になるという目標、
薬を作るという目標、多くの人々を病気から救お
うという目標など、彼は常に高い目標を持ち、そ
れをなし遂げるまでは故郷に決して帰らない、
「志を得ざれば再び此の地を踏まず。」

という強い覚悟を持っていました。

なぜ野口英世は、負けずぎらいの性格と、高い目標を持ち続けること、この二つを生涯にわたって持ち続けることができたのでしょうか。そこにあるのは、

「自分ならできる。」

「自分にしかできない。」

というプライドだったのではないのでしょうか。そしてそのプライドを育てたのは、ここ猪苗代の過酷な自然だったのかもしれませんが。冬の強烈な寒さと雪が、野口英世を鍛えたのでしょうか。

このような野口英世の生き方を、私はとても尊敬しています。物心ついたときから猪苗代の人間は、野口英世の生涯について聞かされ、学んで育っています。

実は私は今年、初めて駅伝部に入りました。これは私にとってかなりの冒険でした。私は、小さいときから走ることが苦手でした。だから駅伝の練習でも、二キロのコースを完走することが精一杯です。もともと運動が得意ではないので、「上を目指そう。タイムを縮めよう。そのために、もっと練習しよう。」という気にはなれず、ただ走るだけで毎日が過ぎていきました。

そんな毎日の練習の中で、私は、「挫折や失敗を経験しないと、努力を重ねていく力がわいてこない。」ということを知りました。タイムを縮めるこ

とができない悔しき、という小さな挫折が、タイムを縮めるエネルギーになっていくのです。そして、その努力の末に結果は必ずついてくるということも、今年一緒に駅伝部に入った友達を見ていて感じました。彼女は、練習の時から先輩をしつかり追いかけ、大会では五人のメンバーの一人として、二区を走り抜きました。

野口英世の生涯は、どうだったのでしょうか。彼の生涯は、やはり挫折と失敗の連続だったと言ってもいいのかもしれませんが。高い目標を持った野口英世。挫折や失敗を繰り返すたびに、それ以上の努力を、負けずぎらいの性格で積み上げていった生涯は、その功績とともに、私たちの記憶にあるのかもしれませんが。

私は来年、今年の自分を超越することができるように練習し、駅伝メンバーとして走りたいです。

「忍耐は苦い、されどその実は甘い。」

私にとって、速く走れることはむしろかしくて、そのための練習も、きつと辛いものになると思います。ですが、目標を高く持ち続け、その結果をつかむことができるまで努力したいと、今は心から思っています。



吾妻中学校 2年 松本レイさん



長瀬小学校 4年 野口大和さん

感染症世界大流行

竹田 美文

人類は、紀元前から数々の感染症の流行に襲われた。ことに人々が集団で暮らすようになり、家畜を飼い始め、さまざまな国や文明の間で交流が盛んになると、流行が大規模となった。ときには、地域が、文明圏が、国が、あるいは人類が滅びるのではないかとこの恐怖を覚えさせるほどの大流行が起こった。本稿では、そうした数多くの感染症の中から、とりわけ人類に大きい影響を及ぼした天然痘、ペストおよびスペインかぜを取り上げる。これらの感染症世界大流行は、新型コロナウイルス感染症の流行の渦中にある私達に、多くの教訓を遺している。

天然痘

天然痘は、天然痘ウイルスが飛沫感染、接触感染あるいは空気感染によって、ヒトからヒトへ感染する致死率が非常に高い感染症である。潜伏期間は7〜17日で、通常、急激な高熱と頭痛、四肢痛、腰痛などが2〜4日続いた後、全身に発疹が出る。特に顔面と四肢の末端の発疹が顕著である。出血を伴う場合は、発症後5〜6日で死亡する。(写真1、2)

人類は、おそらく有史以来、天然痘に苦しめられたのではないかと思われる。紀元前1157年に死亡した古代エジプト王朝のラムゼス5世のミイラの顔面には、天然痘の痕跡が残っている。(写真3)

古代から近代にかけて繰り返し行われた侵略や探

検、そして文明の発展に伴う大陸間の交易などにより、天然痘は8世紀以降、ことに16世紀には、またたくまに世界中に拡大した。どれほどの人々が感染し、亡くなったか、記録がない。しかし、感染の広がりの速さと、症状の重篤さを考えると、犠牲者



写真1. 天然痘の患者像 (杉山茂彦博士提供)



写真2. 天然痘の患者像 (杉山茂彦博士提供)



写真3. ラムゼス5世のミイラ像
(アデル・マームー博士提供)

の数は想像を超えるものであったに違いない。

一方において人類は、すべての感染症の中で最も早くから天然痘の制御に取り組んでいる。

今から220年以上前の1796年、イギリスの医師エドワード・ジェンナーは、牛の天然痘（牛痘）を接種することで天然痘が予防できることを報告した。ジェンナーが育ったグロスターシャー地方の農村部では、牛の乳搾りをする女性たちが牛痘にかかると、天然痘にはかからないことが昔から知られていた。ジェンナーはこのことを実証するため、ジェームス・フィップス少年（8歳）に牛痘を接種し、その後数回にわたって天然痘を接種しても、天然痘が発症しないことを証明した。種痘のはじまりである。（写真4）

種痘は、地球上から天然痘を根絶した。WHOは1959年、種痘の接種によって世界から天然痘を根絶することを目標として大作戦を開始した。「天然痘根絶計画」と称したこの大作戦に、当初から関

わった蟻田功が書いた「天然痘根絶・ターゲット0」（毎日新聞社、1979）は、この大作戦が大成功を収めるまでの経緯を詳細に記述している。

書き出しは、「1962年、春のある朝、私は東京霞が関の厚生省の公衆衛生局の一室で、鉛筆をなめなめ、起案文書をねっていた。おだやかな春の日ざしが、室内を明るく染め、天下太平である。そこへ、一通の航空便が舞い込んだ。ジュネーブの消印がある。開いてみると、ジュネーブのWHO（世界保健機構）本部のG博士からである。（中略）」WHOは天然痘根絶という野心的な対策を計画中であるが、西アフリカのリベリアで、試験的な対策をやってみたい。ついては、2年契約でリベリアに行ってみないか」これが文面であった」

1926年生まれ、の蟻田功博士は、熊本医科大学（現熊本大学医学部）を卒業後、厚生省に勤務していた。G博士の手紙を受け取った年の夏、リベリアに赴いた蟻田博士は、20年後の1982年5月8日のWHO総会において、自ら天然痘根絶計画のリーダーとして、世界中から天然痘を無くした「天然痘根絶」を誇らかに、高らかに宣言した。

「天然痘根絶・ターゲット0」の最後に、蟻田功は「天然痘根絶計画は、恐るべき一病原体を、人類が一致団結して、地球上からの絶滅を図った事業である。その成功には、実際の利益、3000年以上続いた悪疫の消失の他に、精神的な教訓がある。それは、人類は、政治、宗教、人種を越えてその英知を集合して、共同の敵に当たることができる、と

いうことを証明したことである。」と書いた。世界が新型コロナウイルス感染症の大流行の真っ只中にある現在、すべての人が心に強く刻まなければならない、含蓄に富む言葉である。



写真4. ジェンナーの種痘像（イタリア・ジェノアの Palazzo Bianco 美術館所蔵、加藤四郎博士提供）

ペスト

ペストは、ペスト菌を持った野ネズミなどに寄生しているノミに咬まれて感染する。腺ペスト、敗血症型ペストおよび肺ペストの3つの病形があり、いずれも致死率が高い。

腺ペストは、ノミに咬まれた部位には変化がないが、2〜7日の潜伏期の後、近くの領域リンパ腺が腫れ38度上の急激な発熱があり、頭痛、寒気、全身倦怠感、筋肉痛などの症状が出る。早期に抗菌薬を投与すれば、後遺症はほとんど残らないが、適切な治療が行われないと、発症1週間くらいで死亡する。

敗血症型ペストは、通常、腺ペストから移行する。急激なショック症状が出るとともに、昏睡、手足の壊死、紫斑などが現れ、全身が黒色となる。ペストのことを黒死病と呼ぶのはこのためである。2〜3日で死亡する。

肺ペストは、腺ペストの末期や敗血症型ペストの経過中に起こる。肺にペスト菌が侵入して肺炎を起こす。症状は強烈な頭痛、嘔吐、急激な呼吸困難などで、39〜41度の高い熱が上がったり下がったりする。鮮紅色の泡立った血痰を排出し、痰の中にはペスト菌が混入しているので、周囲に感染が拡大する。2〜3日で死亡する。

ペストの世界大流行は3回記録されている。

第1回世界大流行は、541年から750年にかけて、エジプトに端を発し地中海沿岸諸国から北西ヨーロッパに及んだ。東ローマ帝国の首都ビザンチンでは、流行の最盛期の3ヶ月の間、毎日5,000人〜10,000人の死者が出たと伝えられている。

第2回世界大流行は1345年に始まった。クリミア半島の Caffa からコンスタンチノープル、ベネツィアを経て、ヨーロッパ諸国に広がり、数世紀にわたってヨーロッパをペストの恐怖に陥れ、2,500万人とも4,000万人ともいわれる人命が奪われた。当時のヨーロッパの人口は約1億人と推定されているので、人口の約4分の1から2分の1に近い人々が、ペストによって死亡したことになる。この流行の時、現在でも外来感染症の国内への侵

入を防ぐために行われている「検疫」が始まっている。すなわち、ベネツィア共和国（イタリアのベニス）では、オリエントから来た船がペストを持ち込んでいることに気づき、船を40日間、港の外に強制的に停泊させる法律を作って対応した。1377年のことである。「検疫」の英語は「quarantine」であるが、これはイタリア語のベネツィア方言で「40」を意味する「quarantena」に由来している。ヨーロッパの古い街の広場や修道院などで見かける「ペスト塔」は、第2回ペスト世界大流行の惨状



写真5. オーストリアの首都・ウィーンのグラーベン通りのペスト塔
(林英生博士提供)

を現在に伝え、ペストの犠牲者を慰霊する塔である。なかでもウィーンのグラーベン通りのペスト塔は、見事な芸術である。（写真5）

第3回世界大流行は、前2回の大流行が初発の地域から隣接する地域や国々に徐々に広がり、長い年月の間にヨーロッパの広い範囲に拡大したのと状況が異なる。19世紀中頃に中国の雲南省で発生した流行が、1894年に香港に侵入すると、折からの蒸気船の発達によって、一気にアジア、アフリカ、ヨーロッパ、南北アメリカなど世界中に拡大したもので、まさに文字通りの世界大流行となった。

1950年頃に流行が収まるまでに、アジアおよび太平洋地域の19カ国（地域）、ヨーロッパの7カ国、アフリカの18カ国（地域）、アメリカ合衆国および南米の8カ国に広がり、死亡者が1,350万ないし1,500万人と記録されている。なかでもインドの流行は猖獗を極め、約1,200万人の死者を出している。

第3回世界大流行が広がっていた19世紀後半、ヨーロッパで近代医学が勃興した。エリー・メチニコフ著・宮村定男訳「近代医学の建設者」（岩波書店、1944）は、ルイ・パスツール（仏…1861、微生物の自然発生説を否定）、ジョセフ・リスター（英…1867、フェノールによる消毒法の開発）、ローベルト・コッホ（独…1882…結核菌の発見）の3人をその立役者とした。いずれの業績も微生物学（細菌学）に関連したもので、近代医学は細菌学の研究で幕を開けたといえることができる。

明治政府は、近代医学（近代細菌学）のわが国への導入を、東京大学医学部を卒えた北里柴三郎に託し、1886年（明治19年）、ドイツ留学を命じた。足掛け6年、コッホの弟子としてベルリンで過ごした北里は、1892年（明治25年）に帰国し、福沢諭吉が創設した私立大日本衛生会伝染病研究所（現・東京大学医科学研究所）の所長に就任した。そしてその2年後、1894年、流行が始まった香港において、ペスト菌を発見した。（写真6）



写真6. コッホの研究室での北里柴三郎
（北里研究所提供）

スペインかぜ

“かぜ”は、紀元前4世紀頃、古代ギリシャの医師ヒポクラテスが書き残している。おそらくは、症状がそれほど重篤ではない感染症であったと推測できる。わが国でも、平安時代の「源氏物語」や「増鏡」の中に記載がある。

ところが、1918年、突然に世界中の人々を恐

怖に陥れる“かぜ”の大流行が起こり“スペインかぜ”と呼ばれた。後になって原因がインフルエンザウイルスであることがわかったものの、当時はまだウイルスの概念が学問的に確立されていなかった。スペインかぜは、1918年（大正7年）から1920年（大正9年）にかけて、世界中で大流行し、世界の総人口が18〜20億であった当時、感染者数は総人口の約4分の1にあたる5億人、死者数は2,000万〜1億人と推定されている。

わが国の感染状況については、内務省衛生局が、感染者数23,804,673人、死者数388,727人と詳細な数字を発表している。当時のわが国の人口は約5,500万人であることから、国民のほぼ2人に1人が感染したことになる。人々の恐怖はいかほどであったか、想像を絶する。

速水融の「日本を襲ったスペイン・インフルエンザ」（藤原書店、2006）に、会津での流行の記載がある。「（1919年・大正8年）一月末に、福島県会津地方耶麻郡吾妻村（安達太良山麓）（現・猪苗代町）のある集落（人口二六七人）住民全員が流行性感冒に罹り、降り続く大雪のため交通が途絶し、医師の来診も乞えず、食糧不足も起こり、病氣と飢餓により、二百余名は遂に惨死せり」という報道が…掲載されている」（写真7）

野口英世の母シカも、1918年（大正7年）11月10日にスペインかぜで死亡した。

A. W. クロスビー著・西村秀一訳「史上最悪のインフルエンザ」（みすず書房、2004）によると、



写真7. 吾妻村の惨死を報じる大正8年1月30日付北海道タイムスの記事
（速水融「日本を襲ったスペイン・インフルエンザ」藤原書店、2006より）

スペインかぜが発生したのは、1918年3月、アメリカのカンザス州である。アメリカからヨーロッパを経由して、わずか8ヶ月で流行が猪苗代まで到達し、吾妻村の惨死が起こり、野口英世の母シカが死亡したことになる。当時の人々の移動、交通手段等を考えると驚異的な速さの伝染の拡大である。（写真8）

スペインかぜの原因微生物であるインフルエンザウイルスが発見されたのは1933年である。現在までに、ウイルスを構成するタンパク質の違いによってA型、B型、C型の3種類に分けられていて、なかでもA型インフルエンザウイルスは、現在で

も世界的大流行を繰り返している。それぞれの流行の原因ウイルスは、抗原性の違いによって多数の亜型に細分化されていて、例えばスペインかぜの原因ウイルスの亜型はH1N1、1957年（昭和32年）のアジアかぜの亜型はH2N2、1968年（昭和43年）の香港かぜの亜型はH3N2などである。2009年（平成21年）には、H1N1亜型による新型インフルエンザの世界大流行があった。



写真8. スペインかぜの流行拡大を示す世界地図（サンドラ・ヘンベル著、関谷冬華訳 竹田誠、竹田美文監修「ビジュアルパンデミック・マップ」ナショナルジオグラフィック、2020より）

新型コロナウイルス感染症

ヒトに感染症を起こすコロナウイルスは、現在までに6種類が確認されている。すなわち、“かぜ症候群”を起こす4種類のコロナウイルスと、SARS（重症急性呼吸器症候群）およびMERS（中東呼吸器症候群）の原因コロナウイルスである。

したがって、新型コロナウイルス感染症を起こす新型コロナウイルスは、ヒトに呼吸器感染症を起こす第7番目のコロナウイルスである。

現在新型コロナウイルスに関する情報は、情報過多と言えるほど入り乱れている。多くの人は、どれが正しいのか困惑しているのではないだろうか。現在までにわかっている確実なことは、（1）若年者に新型コロナウイルスが感染した場合、無症状ないしは軽症のことが多い。しかし、これらの人は感染源となる、（2）高齢者に新型コロナウイルスが感染した場合、重症になることが多い。特に、糖尿病や高血圧の基礎疾患がある人は、重症になりやすい、の2点である。

そして感染予防には、マスクをつける、手の消毒をする、密を避ける、さらには換気をする、と、いずれも科学的根拠のある方法が強く推奨されている。

正しく怖がる

寺田寅彦の随筆に「小爆発二題」がある（寺田寅彦全集第2巻、岩波書店、1997）。「昭和十年八月四日の朝、信州軽井沢千が滝グリーンホテルの三

階の食堂で朝食を食って、それからあの見晴らしのいい露台に出てゆっくり休息するつもりで煙草に点火したとたんに、なんだかけたたましい爆音が聞こえた。『ドカン、ドカドカ、ドカーン』といったような不規則なリズムを刻んだ爆音がわずか二三秒間に完了して、そのあとに『ゴーン』とちょうど雷鳴の反響のような余韻が二三秒ぐらい続き次第に減衰しながら南の山すそのほうに消えて行った。』

浅間山の爆発である。「十時過ぎの汽車で帰京しようとして沓掛駅で待ち合わせていたら、今浅間からおりて来たらしい学生をつかまえて駅員が爆発当時の模様を聞き取っていた。爆発当時その学生はもう小浅間のふもとまでおりにいたからなんのことはなかったそうである。その特別に四人連れの登山者が登山道を上りかけていたが、爆発しても平気でのぼって行ったそうである。」

そして、「怖がらなすぎたり怖がり過ぎたりするのはやさしいが、正當に怖がることはなかなか難しい」と続く。

新型コロナウイルス感染症大流行は、火山の爆発という自然災害とは異なる災害ではあるものの、難しくとも「正しく怖がり」、すべての人が協力して、一日も早い収束を願わずには居られない。

（著者のプロフィール…大阪大学医学部卒、東京大学医学研究所教授、京都大学医学部教授、国立国際医療研究センター研究所長、国立感染症研究所所長、岡山大学インド感染症研究センター長等を歴任、現・公益財団法人野口英世記念会理事長）

第19回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」

「あなたに伝えたい思いがある」



表彰式の様子

令和2年12月6日(日) 第19回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」の表彰式が

猪苗代町体験交流館「学びいな」において行われました。今年は1824編の想いのつまったお手紙が全国のお母さんたちから寄せられ、大賞、準大賞、日本郵便賞各1編、優秀賞7編、佳作40編の計50編の入賞作品が選ばれました。

本年の表彰式は新型コロナウイルス感染症の影響により、遠方からの参加が叶わず、記念講演会や、猪苗代町民との交流会も中止となりました。

大賞 住田沙織さん(愛知県)

あなたに発達障がいがあることを知り、私は、人生が真っ暗になったように感じました。

あれから三年が経ち、あなたは小学生になりました。歴史と電車を愛する、個性的な優しい男の子に成長しました。目をキラキラさせながら好きな本を読んでいる姿は、本当にすきだと思えます。そして、私もあなたの話を聞いているうちに、歴史と電車を愛するおばさんに成長しました。いつもイライラしていた踏切も、引かかるどワクワクするようにになりました。電車がこんなにおもしろいとは知りませんでした。また、あなたの影響で戦国武将が好きになり、夜な夜な歴史小説を読んで、目を^{ハート}にさせています。

私の人生も、あなたの人生も真っ暗ではありません。それどころか、あなたのおかげでとても彩り豊かなものになりました。

辛いことも多いけれど、みんなが助け合って、笑って生きていきましょう。あなたのキラキラした目を、私は守ってあげたいです。



日本郵便賞 横田欣彤さん



優秀賞 西浦比奈井さん



一次選考の様子



最終選考も例年より距離を開けての選考です

準大賞 藤井正恵さん（大阪府）

「生き人形」君のことをそう呼ぶ人もいました。首も座らず、話すこと、寝返りさえもできなかった君は、31年もの間、母さんのそばでよくぞ生き続けてくれました。「長くは生きられない」医師の言葉に泣き、叫び、気が狂いそうでした。静かな諦めが何度も襲いかかりました。そんな時、母さんの腕の中で君は笑いました。小さな手の指先にまでしっかりと力を入れて。最高でした。そこにいてくれるだけで充分だと思いました。

今、98歳のおばあちゃんが認知症になり、君と同じように何もできなくなりました。よく君を抱っこしてくれましたよね。でも大丈夫です。君とすごした31年の日々があるから全然平気です。たとえ何もできなくてもそばにいてくれるだけで、幸せな想いになれることを知っているからです。

「ただ生きること」「ただ生きぬくこと」とても難しいけれど、とても幸せなことだと気づかせてくれた君に心から感謝です。

日本郵便賞 横田欣彤さん（群馬県）

ある日、小学校で初めていじめに遭ったと君は言いました。理由なくマスの紐が壊され、お腹をぶたれ、腕にも小さな青あざがありました。ママは突然の出来事を悲しく思い、どうしたらいいのか戸惑いました。でも、まず怖かったと語る君の説明をよく聞いて、親としていじめっ子たちへの対応の仕方を教えましたね。その後、毎日学校で起きる出来事をいろいろ報告してくれ、一週間経たないうちにみんな良い友だちになったよ、と教えてくれた嬉しそうな君の姿は忘れられません。ママは台湾人ですが自分で日本語を勉強して、君に中国語を教えています。国際結婚で、何も知らない異国の生活に飛び込んだのです。毎日が一生懸命の連続でした。だから、君も日常生活や学校で、くじけそうになっても勇気をもって一生懸命に頑張っただけなのです。そして、将来この社会において、日本と台湾の良いところを繋ぐ存在になってほしいと願っています。

25年目の家族写真

第18回 母から子への手紙コンテスト 大賞受賞者 喜田 久美子（宮崎県）

心のアルバムに収めるだけにとどめず、何かの形で書き留めておきたいと思っているところに目にした「母から子への手紙」募集チラシでした。

「二十五年前の写真を再現しよう、撮影日は母の日」と子供たちが提案した写真撮影のいきさつを書き記しておきたかったのです。



表彰式で写真を紹介する喜田久美子さん

ちよっぴりセピア色になった二十五年前の家族写真。当時、長男が五年生、次男が三年生、三男が一年生、末子の長女が三歳。私も子供たちも硬い表情で写っています。夫を亡くした翌年のその写真は、ずうっと遺影に向き合うように置いてきました。

長い歳月を経ての写真の再現。県外に住む三男を含めて子供たちが連絡を取り合っている様子も見えました。「服装も考えてよ。再現だからね」と、弾んだ声も飛び交っていました。写真館に出向き、かつてのソファーと同様の物を捜しました。娘は写真に残るミッキーマウスの描かれた黄色いトレーナーに似た服をネットで見つけ、取り寄せました。みんなが着々と準備を進めながら心は躍るばかり。子供たちが気遣う私の服装は、なんと二十五年前のセーター・スカートが今もタンスに。断捨離が苦手とこぼしていた私が、物持ちの良さを自慢できたのですから、これも愉快で。三男も前日に帰省し、さ

あ、母の日の撮影本番に。

長男・次男・三男・長女それぞれが写真に合わせた色と柄の服を着用し、ソファーに座る位置も二十五年前そのままに。そして結婚している長男・次男には新しい家族も寄り添って。事情を知ったカメラマンさんにもこやかで、朗らかな笑いのなかで、カシヤツ。ささやかではあっても家族みんなが気持ち



夫を亡くした翌年の写真

を一つに臨んだ撮影、宝物に加わった一葉の写真、そして何より計画した子供たちへの感謝。溢れる想いを連ねました。応募規定は四百字。削っては削りの繰り返しでした。

一字一字埋めていくなかで、二十五年間のさまざまが蘇りました。

脾臓癌で逝った夫の闘病は短かったため、子供たちにとっては父親の死は突然に近いものでした。夫の死から二か月後、次男が朝起きられなくなり、繰り返す頭痛に脳腫瘍ではと受診したところ医師からは「心因性のも、心当たりは？」という言葉。その後、長男が真夜中に飛び起き家の内外を走りまわるようになり、夜驚症との診断。いずれも不安から起こる症状と聞き、かけがえのない父親を失った子供たちの心の穴の大きさを思い知らされました。運動会の父子ゲームで代わりを務めてくださった保護者の背で少しも動けなかった三男のうつろなまなざし、父親の蔵書を引き取った書庫の写真を見て「ここが天国？ここに行こうよ。私たちも行こう」と嬉々として叫んだ長女のほっぺのぬくもり。走馬灯のようにいろいろな場面が駆け巡ります。

思春期になると子供たちは深い悩みをも抱くようになりました。懸命に生き、温かかった父親を胸に刻む次男は、「お父さんの生き

た四十六年間は何だったんだ。僕たち家族の存在はあまりにも小さすぎる」と苦しみ、果てに不登校になりました。どうしたらいいのかわからず、私は子供たちの前で遺影に向かって「私一人では子育ては重過ぎる」と涙したこともあります。

子供たちそれぞれの葛藤に親として全く力のない私でした。ただ悩んだ分、私の子育ては豊かで深みを増したのではないかと今では思えます。ここに至るまで親族や医師や多くの方々に支えられてきました。

歳月は流れ、四人の子供たちは社会人として働いています。心細さが透かし見える家族五人のセピア色の写真の横に、今、十人の笑顔が輝く写真が並んでいます。

入賞の知らせは望外の喜びでした。

表彰式では最終選考委員の一人お一人からも励ましをいただきました。また、米俵も渡され、びつくり。懇親会ではお母様たち手作りの美味しい郷土料理をいただき、素晴らしいおもてなしに感じ入りました。

表彰式会場でも懇親会の席でも「読みましたよ」と幾人もの職員やお母様から声をかけられ、このコンテストが猪苗代町あげての取り組みであり、地元の方々が大切にされていることが伝わって来ました。うつすらと被っ

ていた磐梯山の雪が式の終わる頃には消え、皆さんが口々に「すっぴんに」と。やわらかい言葉を耳に残して福島を後にしたのでした。ちょうどいしたお米は、表彰式に同行した娘が写した野口英世博士像と私のツーショット写真で猪苗代に思いを馳せていた子供たち家族にも分け、みんなで東北の味を満喫しました。

子供たちからの思いがけない提案があつて書いた作品です。賞金をもとに家族揃つての近場の一泊旅行を楽しみました。これは私からの提案。貴重なアルバムの一ページがまた増えました。



25年後の写真

未来に生きる子供たちへのエール

― 出前授業を担当して ―

鍋谷 正則

はじめに

野口英世記念会としての出前授業は、本会に保存されている写真等を効果的に活用しながら平成二十五年度より始められた事業である。主に、修学旅行で来館予定の学校からの要請を受け、学校又は宿泊先へ出向いて、当記念館職員が「野口英世の生涯と業績」について教授するものとして取り扱ってきた。

出前授業を始めた当初の平成二十六年度は十六校の訪問だったものが、年々希望する学校が増加すると共に、担当する当記念館職員の数も増え、令和二年度にはコロナ禍においても百七十校以上の依頼を受けて実施した。

出前授業はこれからの社会に求められる人材の育成であり、子供たちが未来の自分をイメージしながら、自分の中に潜む自分を「発見」する営みでもある。野口英世の夢を追い求める姿から、志を高く持つ

て生きることの大切さに気付いて欲しい。

次世代育成という理念のもと、一人一人の子供たちが立派な社会人となるために本会がその一助となれば幸いである。



新潟県新潟市立江南小学校

不易と流行

人生百年時代と言われ、人工知能（AI）などの技術革新が急速に進み、未来社会を担う子供たちを取り巻く状況は大きく変化している。これらは「時代とともに変えていく必要があるもの」（流行）であり、医療現場においても、野口英世の時代から大変革を遂げている。現在では、病気の診断や治療、医療機器などにもAI活用が推進されるなど、新しい時代を迎えている。

一方教育現場は、最新の優れた指導技術を駆使して子供たちの指導に当たることが求められている。このような激動の時代を豊かに生きていくためには、誰もが自らの可能性を信じ、新たな知識や技術を身に付けながら最大限に努力することが大切である。これまでの教育の中で育まれてきた「生きる力」（知・徳・体）を土台として、子供たちの「夢」を実現させるために、時代に合わせながらICTを含む最新



栃木県塩谷郡高根沢町立阿久津小学校

の技量を自分のものにしていかねばならない。

また、野口英世が生きてきた明治からの時代と令和の時代では、物質的な豊かさや人々の考え方や社会環境や時代背景が全く異なっている。しかし、昔と今では厳しさの意味は違っても、どちらも厳しい時代であることに変わりはない。一人一人の子供たちがこれからの時代を乗り越え、新たな価値を創造していくために「野口英世の生涯と業績」を学ぶことは意義深い。どのような時代であつても、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値のあるもの」(不易)がある。「母子の絆」や「感謝する心」「努力」「忍耐」等、明治から大正、昭和の時代を力強く生き抜いた野口英世の生きざまから

学ぶべき事柄は多く、現代にも通じる不易の部分を大切にしていきたい。

これからの人生を豊かに生きるために、必要な力を感覚的に備えることは大切なことであり、野口英世記念会の果たすべき役割は極めて大きいのである。

出前授業の効果

文部科学省『第三次教育振興基本計画』の基本的な方針の一つに「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」とある。これらは学校教育や家庭教育及び地域社会で完結されるべきものであるが、併せて「野口英世の生涯と業績」についての出前授業を行うことで、子供たちが自分の将来を考えるきっかけとすることができる。これは、第三次教育振興基本計画の「夢と志」「可能性に挑戦」というワードに合致するものである。自分が本当にやりたいことを見つけ、人間としてよりよく生きていくための力や内面から湧き出る意欲が芽生える。子供たちは野口英世を学ぶことによって、人生を力強く生きるための糧とすることができるのである。また、次世代育成として取り組む出前授業は、次のような効果が期待される。

○ 修学旅行や遠足の事前学習として、当日の見学をより実のあるものにする。

※(野口英世記念館の見学ポイントを事前に知り、興味関心を高める。)

○ 野口英世の生き方を学び、自分の将来の生き方の

参考とする。

○ 道徳や総合的な学習の時間、社会科の歴史学習で野口英世を題材として深く学ぶための資料とする。



埼玉県三郷市立新和小学校

出前授業の効果は様々であるが、学校で普段接することのない外部の人と学習を共有することは、新鮮な刺激として理解力や思考力が研ぎ澄まされる。

各学校での様子を聞くと「出前授業の前に子供たちが調べ学習をしてきた」「出前授業の後に様々な疑問点を整理して調べる」という学校が多い。いずれも子供たちの理解をより深化させ、主体的な学習が各学校で展開されていることがわかる。これらの活動を通して、生きることの素晴らしさと将来に對

する夢や希望を持たせることができたなら、何と素晴らしいことであろうか。

教育活動への寄与

教育現場に接することで、学校や子供、保護者に対しても野口英世記念会への理解を深め、社会的責任を教育の場で還元することができる。未来を担う子供たちに将来の自分を楽しみに感じてもらうことが、次世代を生きる子供たちにとって大切なことである。野口英世の生涯と業績を通じて、将来の職業や学び、生きることの尊さを実感させ、自立した一人の人間として生きていくキャリア教育にも通じる。ある学校で、出前授業が終わった後に担任の先生が「次の時間は、野口英世の出前授業を受けて、自分の将来のことを考える時間にします」と言った。どのような活動が展開されるのかとても興味深かった。将来、子供たちが社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するためのきっかけとなれば嬉しいことである。一人一人が自分の生きる道への動機づけとして欲しい。

また、人権教育という観点から考えると、野口英世は様々な差別を受けてきた経緯から、自らの人権感覚が研ぎ澄まされてきた。小学校時代には「てんぼう、てんぼう」と言われていじめを受けた。特に、身体的な特徴を捉えたいじめはあってはならない。しかし、現実にいじめはどの子にもどの学校にも起こりうることであり、どのような時代においてもい

じめは存在する。現代では、いわゆる「ネット上でのいじめ」が社会問題化しており、他にも「東日本大震災により被災した子へのいじめ」「原子力発電所の事故により避難している子へのいじめ」等が時々報道される。相手を思いやる心の大切さ、生命の尊さ、よりよく生きる喜びなどを育むことが、いじめをしない、許さない心を育むことであり、人権意識を高揚させることにもつながるのである。出前授業を通じて「人の役に立てる人間になりたい」と思った子供は、次に自分の目標を立てて努力をする。その中で、自己肯定感や自己有用感を体感することができるはずである。そして自他の生命の尊重、思いやり、感謝、困難を乗り越える力、前向きに挑戦してやり遂げる力等、様々な教育的効果が期待される。



埼玉県比企郡川島町立伊草小学校

子供たちの声

出前授業では、基本的にどの学校の子供たちも熱心に話を聞いたりメモを取ったりしている。授業後に担任の先生から「子供たちの眼がいつもと違っていました」「こんな真剣な様子は初めてです」「すごい集中力で話に食いついていた」「興味関心の高まりが、見ていてよく分かりました」等の言葉をいただくことがある。授業者としては、とても励みとなり嬉しい言葉である。

また、子供たちの声は後日届けられる手紙や感想として、素直な気持ちを伝えることができる。大きく「野口英世の生き方についての感想」と「自分の今後の生き方についての指針」に分けられるが、その一部を紹介する。

【野口英世の生き方について】

- 「野口英世は千円札の人としか知らなかったけど、こんなに深い物語があったとは驚いた」
- 「どんなに苦しくても努力し、母を想い、負けるものかと頑張る姿に感動した」
- 「野口英世は、人生のすべてを本気で生き抜いた人だと分かった」
- 「人のために、自分の命を犠牲にしてまでやり遂げようとするすごさがある」
- 「野口英世の努力はすごいけど、お母さんや恩師に支えられていたと思う」
- 「野口英世の人生の中で、多くの恩人との出会い

がありそれを生かしていた」

- 「野口英世の折れない心、強い心に学ぶべき点が多い」

- 「どんな困難にもあきらめない強さがあり、支えは母の愛だったと思う」

【自分の今後の生き方】

- 「自分のやりたいことや好きなことに向かって、努力への意欲が高まった」

- 「野口英世のように、粘り強くあきらめない心で生きていこうと思った」

- 「『目的・正直・忍耐』というメッセージは、勇気が出る言葉だった」

- 「誰にも負けないものを見つけて、努力し続けようと思った」

- 「自分の人生に希望と勇気を与えてくれた。人の役に立つような人間になりたい」

- 「野口英世の生き方が心に響き、自分の将来を真剣に考えるきっかけとなった」

- 「努力と思いやり、そして忍耐強さがいかに大切かよく分かった」

これらの感想から子供たちの真つすぐな心と、未来へ向けてのひたむきな思いが伝わってくる。

教育実習生からの感想も寄せられ「母との『愛』が強く心に響いた。『目的・正直・忍耐』を強く胸に抱いて、教員の道で頑張っていきたい」と記されていた。これからの若い先生へ、心のエネルギーとなったことが嬉しかった。

出前授業を実施するにあたっては、次のことを感じて欲しいと願っている。

『自分は家族や仲間から愛され、必要とされている存在である』

『多くの人との縁と出会いを大切に、自分の道を切り拓いてゆく』

『明日（未来）への希望をもつことが、自分の成長を促し夢の実現につながる』

野口英世の生涯からは、随所にこのようなことを感じられるような場面がある。これらの熱いメッセージを受け止めてもらえるような授業を心掛けたい。

おわりに

出前授業を受けた子供の感じ方には個人差がある。本授業が「心の琴線」に触れ、その子の将来に多大な影響を及ぼすことが期待される。野口英世の生涯を通して、多くの学校の支持と一人一人の支援に繋がることを願ってやまない。

子供たちが将来の夢を叶えるために、努力や忍耐が必要なのは当然のことである。

目標が人生に力をつける。しかし、大切なのは「子供の想い」であって、長い人生を豊かに過ごせるかどうかは、一人一人の「心」が鍵を握っているのだと思う。自分にできる精一杯の努力ができたかどうか、挫折や苦しさ乗り越えることが、より人間に深みを与えてくれる。野口英世の生涯には、そんな

ことも考えさせられる奥深さを秘めている。

乗り越える壁が高ければ高いほどその喜びは大きくなり、その喜びが大きければ大きいほど、もっと高い壁を乗り越えて努力しようとする気持ちが芽生える。

出前授業は子供たちの将来に向けて、影響力のある価値ある事業である。これからも、希望をもって未来に生きる子供たちに次世代育成のエールを贈り続けたい。

〈著者略歴〉

昭和54年度より埼玉県の教諭、社会教育主事、教頭、東松山市教育委員会学校教育課長、校長を歴任、令和2年4月より公益財団法人野口英世記念会勤務



埼玉県比企郡川島町立伊草小学校

野口英世記念館の動向

自動券売機導入

令和2年4月1日



導入された自動券売機

野口英世記念館では、入場券の販売のために自動券売機を導入いたしました。また昨今の電子決済での支払いの流れもあり、自動券売機では「pay pay」、LINE PAY などのスマートフォン決済が可能となり、来館者の利便性を高めることとなりました。新型コロナウイルスの感染拡大のなか、対人での接触を減らすことが求められたこともあり、自動券売機の導入により感染対策にも役立つこととなりました。

囲炉裏の煙で生家燻蒸

令和2年4月8日



生家の囲炉裏焚き

野口英世の生家では、茅葺き屋根の保護と防虫のために年に数回、囲炉裏に実際に火を焚き、その煙で茅屋根をいぶす燻蒸作業を行っています。日頃は火災予防のため、日常的に囲炉裏に火を焚くことはできませんが、燻蒸の日には来館者にも当時の生活の雰囲気をよくよく知っていただける機会となっています。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため臨時休館

令和2年4月11日～5月24日



臨時休館中の館内

新型コロナウイルス感染症の流行拡大により当館では4月11日より臨時休館をいたしました。当初5月6日の再開館を考えておりましたが、政府からの緊急事態宣言が全国対象となり、流行の収束が見られず、5月25日の緊急事態宣言の解除を受けて、この日より再開館いたしました。

営業再開にあたり、入館時の体温測定、アルコールによる手指消毒、館内の換気及び密の回避などの感染予防対策を実施し、安心して来館いただけるよう対策を徹底しました。

子どもたちに人気の体験ゲームやクイズもタッチパネルを使用しているものは使用が中止となり、白衣を着ての写真撮影も感染予防の観点から実施が中止となりました。

例年夏に向けて教育旅行で学生が来られる時期もほとんどの学校が夏休み明けに修学旅行を延期したため、例年の賑わいは見られず、少しさびしい記念館の様子となりました。

野口英世渡米120年記念 特別展開催

令和2年5月25日～令和3年3月18日

1900年に野口英世が横浜港から渡米して今年は120年の節目の年となりました。記念館では渡米120年を記念して特別展「野口英世 世界の舞台へ」を1階展示室で開催いたしました。

野口英世の渡米に対する想いや、実際の渡米の苦労、アメリカでノーベル賞候補になるまでの成長を、直筆書簡や写真・資料で紹介しました。

学歴の壁により日本での研究の機会に恵まれないと考えた英世は新たなチャンスを求めて1900年12月に渡米しました。官費留学ではない英世の渡米は経済的に困難なものでしたが、ペンシルベニア大学のフレクスナー博士の支援によ

り研究ができるようになりました。

英世のアメリカでの研究は当初は学位の取得を念頭に置いていましたが、研究を進めるうちにアメリカ医学の代表者として、世界で活躍する医学者をめざすものになりました。アメリカ、そして世界の舞台へと上がった野口英世は、ノーベル賞候補に挙がるまで成長しました。

展覧会では八子弥寿平に宛てた留学希望の手紙を特別公開しました。その手紙は、研究者としてまだ始まったばかりの英世が、海外での研究を希望し、自分の将来の道筋を描くものでした。

120年の時を経て、当時の英世の心情を思い起こさせる展示となりました。



渡米120年記念特別展

緑の少年団より花苗寄贈

令和2年6月18日

今年も猪苗代町立緑小学校の緑の少年団のみなさんよりお花の苗を寄贈いただきました。温かくなると記念館の中庭に多くの花を咲かせてくれました。ありがとうございました。

お手紙をいただいたのでご紹介します。

野口英世記念館のみな様へ

ぼくたち緑の少年団は緑を守り、緑を育て、美しい猪苗代町になるようにと活動しています。

この花は県からのほじょ金と私たちが緑の募金で集めたお金で買った花です。そして3～6年生全員で土やプランターを準備して、今日まで一生懸命水やりをして育てたものです。町の人々に緑の大切さをしてもらうためこの花をこちらに置いていただきたいと思います。

猪苗代町立緑の少年団3年生一同



記念館を飾った花々

緊急特別展

「感染症世界大流行の歴史」開幕

令和2年7月16日（令和3年3月18日）



緊急特別展「感染症 世界大流行の歴史」

令和2年に全世界に猛威を振るった新型コロナウイルス（COVID-19）により、一般の方の感染症に対する関心が非常に高くなりました。当館では有史以来の感染症流行の歴史と人類の感染症に対する取り組みを緊急特別展として紹介しました。

とくに人類に大きな影響を与えた「天然痘」「ペスト」「梅毒」「スペインかぜ」に焦点を当て、人類がこれら感染症の拡大にどのように向き合い乗り越えてきたかを紹介しました。（内容は本会報17頁 竹田美文『感染症大流行』をご覧ください。）

救世観音祭礼

令和2年8月9日

記念館に祀られている救世観音の祭礼が8月9日に行われました。

母シカの心を癒すために記念館の開館に合わせて観音堂を設け一葉観音が祀られています。祭礼には野口家の菩提寺である長照寺の楠俊道住職と三城潟御詠歌護持親睦会のみなさまにお集まりいただきご住職の読経のあとに、中田観音の御詠歌と一葉観音の御詠歌を詠じていただきました。

今年の祭礼はいにくの雨の為、生家座敷で行われました。長照寺ご所蔵の母シカが寄進した悲母観音像の掛け軸を床の間に飾り、観音様への祈りを込めました。



生家座敷で行われた救世観音祭礼

初のナイトミュージアム開催

令和2年10月24日・11月1日・7日

当館では、昭和14年に開館して以来、初めての試みとして、ナイトミュージアムを10月24日（土）、11月1日（日）、7日（日）に開催しました。

近年、夜間の時間におこなわれる様々な活動を通じて地域の文化創生や発展、国内外の人々への魅力訴求、消費拡大につなげるナイトタイムエコノミーが推進されてきました。海外からの訪日観光客の増加に伴い、近隣の行政、施設なども積極的に取り組んでおり、当館でも夜の観光コンテンツとして検討し、ナイトミュージアムを開催する運びとなりました。

内容は、当会理事長・竹田美文による講話「感染症のはなし」、生家いりりの火入れ、生家上屋からの散水、館内見学です。

コロナウイルス感染予防の観点から、館内を一方通行とし、参加人数を20名に限定して行いました。3日間を通して、県内外から参加していただきました。

感染症の講話は、1階エントランスホールで行い、これまでの人類と感染症との闘いの歴史や、これからも流行が懸念される新型コロナウイルスについてのお話があり、みなさん興味深く聞き入っていました。関西からお越しのお客様は、「とても楽しく、勉強になるお話ですね。」と感想を述べてくださいました。



講話「感染症のはなし」

生家いろいろの火入れは、火入れの様子をご覧いただくとともに、野口英世が生活していた当時を体感していただくことをポイントに行いました。英世が過ごして当時は、電気はなくランプが使われていましたが、貧しくて使えませんでした。野口家ではいろいろの火だけが頼りだった状況を説明し、実際にその暗さを体感していただきました。

お客様からは、あまりの暗さに驚いた声が上がりました。当時の様子に想いを馳せてくださいました。また、生家見学の際は、ランタンの火で見学をし、幻想的な雰囲気体験していただきました。

館内の見学では、複数回ご来館くださっているお客様が「また新鮮な気持ちで展示を見ることができ、野口英世の魅力をさらに感じました。」との感想を述べてくださいました。



ランタンの灯りを手に夜の生家を見学

生家上屋からの散水では、上屋ドレンチャー（散水機）の機能の説明と生家のライトアップを加えて行いました。生家中庭の紅葉と合わせて、日中とは違う生家の表情を見ていただきました。

ナイトミュージアムの開催を通じて、お客様には、より深く野口英世の世界を体感していただくことができました。また、普段は見ることでできない生家や展示室の表情は、私たちも多くを感じ、学ぶ機会となりました。

今後は、開催時期、時間などを検討し、より良い観光コンテンツへの磨き上げをし、来館したお客様に喜んでいただきたいと思います。

野口英世博士第144回誕生祭

令和2年11月9日

今年の野口英世博士誕生祭は、コロナウイルス感染症の流行を受けて、5月9日に行われた命日祭と同様に、例年のような地域の来賓の方に参加いただくことはせず、野口家親族代表の二瓶昭様、野口家菩提寺長照寺住職楠俊道様にご臨席いただき、記念会常勤役員のみで執り行われました。

ご住職の読経の後、献花が行われ野口英世の誕生を祝いました。

例年は翁島小学校の児童のみなさんによる唱歌「野口英世」の合唱披露が誕生祭に花を添えて下さいますが中止となりました。早く新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、多くの方とともに野口英世の誕生を祝える日を待ちたいと思います。



少人数で行われた野口英世博士誕生祭

野口英世記念館で年中行事

令和3年1月14日・2月3日・3月3日

野口英世記念館では会津の伝統行事を子どもたちにも知ってもらうため、野口英世の後輩にあたる猪苗代町立翁島小学校の1年生と3年生の児童とともに団子さしと節分豆まきを行っています。1月14日の団子さしでは児童が五穀豊穡を願い、ミズキの枝に色とりどりの団子や縁起物を飾り付けてくれました。団子さしは節分まで飾り付けられ来館者の目を楽しませました。



ミズキの枝に団子飾る子ども達

2月3日には節分豆まきを生家で行いました。今年はコロナウイルス感染予防のため1年生と3年生で時間を分けて行いました。子どもたちの「鬼はそと、福はうち」の掛け声とともに生家に現れた鬼に向かって元氣よく豆をまいてくれました。



元氣に鬼退治

また今年は3月3日のひな祭りにあわせて記念館エントランスホールにひな人形を飾りました。七段飾りのひな人形を飾るのは職員も初めてのため、並び順やもち道具などそれぞれの意味を学びながらの展示作業となりました。

古来より年中行事にはいろいろな祈りが込められています。記念館では来館される子どもたちの健やかな成長や平和を祈りたいと思います。



七段飾りのひな人形

新撮影スポット設置

令和3年1月22日

野口英世記念館は、博物館としては珍しく館内での写真撮影が可能です。これまでも研究室の英世と一緒に写真を撮れるスポットや生家前の顔出しパネル、等身大の英世と背比べができるスポットなどがあり好評です。

新しく設置された撮影スポットは、猪苗代の風景の中で当館広報大使ヒディと一緒に写真が撮れるフレームとなっています。

またこの撮影スポットは移動可能なため、季節や天候にあわせていろいろなところで写真をお撮りいただくことができます。

記念館での想い出をたくさん写真に残していただければと思います。



新撮影スポット

疫病退散！大型赤べこを展示

令和3年1月25日～3月25日

新型コロナウイルス感染症の流行により、会津の民芸品赤べこが全国的に注目を集めました。

赤べこは疫病から身を守る縁起物として親しまれ、牛のお腹に描かれる黒い斑点は天然痘流行の際に疫病除けのために描かれました。

記念館では、北塩原村のアクティブリゾーツ裏磐梯様に協力いただき、全長2.5mの大型赤べこを期間限定で展示しました。

この赤べこは発泡スチロール製で、民芸品の赤べこと同じように愛くるしく首を振ります。そのかわいらしい姿は来場者によるこぼれ、多くの方が写真を撮ってくださいました。



エントランスホールに飾られた大型赤べこ

SDGsへの取り組み

野口英世記念館に来館されるお客様には、教育旅行で訪れる学校団体、生徒さんが多くいらっしゃいます。主に近隣県の修学旅行、林間学校の中で来館していただいています。

コロナウイルス感染症の感染者数、地域が拡大する中、臨時休館対応などもあり、当館への入館者は激減しました。しかし、団体旅行の中で唯一実施されたのが教育旅行団体でした。

近年、当会は営業・広報活動を県内外と広く実施しています。県主催の教育旅行キャラバン(関東・関西・九州方面)への参加、教育旅行受け入れ団体との旅行会社、関係団体への訪問です。これらの活動を通じて当会、当館のニーズ及び地域での役割、連携の重要性を感じていました。

一昨年冬の福島県復興割が実施された際は、近隣ホテルとの連携し、約2,000名の入館者を記録し、県内外から来館されたお客様に喜んでいただきました。博物館、観光施設としての活動することで、広く野口英世の生涯と業績を顕彰することにつながることを認識する機会となりました。

文部科学省の学習指導要領の変更に伴ってSDGsへの流れと学校のニーズは顕著になり、教育旅行での重要性も高まっています。「SDGs」とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に

国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。これに伴い、当館でもプログラム対応について協議を重ねていました。また、コロナ禍で「野口英世」と「コロナ」を重ねて考える人々が多いこともあり、当館ではSDGsの学習プログラムとして「感染症のはなし」を実施しました。

講師は、当会理事長・竹田美文が務めました。身近な感染症について、小学生、中学生、高校生と各カテゴリーに合わせて分かりやすくお話をしました。生徒さん、引率教員みなさん興味深く真剣に聞いていただきました。

本プログラムを受講後、記念館へ来館した生徒さんは、より深い学びの場の提供ができました。また、当館へは初来館の学校が17校約900名となり、本プログラムが来館の重要なきっかけとなりました。

このSDGsの取り組みは、全国でもこのような実施を行っている地域はまだ少なく、先進地域となりました。今後、SDGs関連プログラムは、教育旅行だけでなく、一般、インバウンドでも需要が高まることが予想されています。各ニーズに合わせたプログラムを造成、対応していくことで来館者の増加、野口英世の生涯と業績を深く知っていただける機会となり、当会の顕彰活動につながると感じています。

各地で行われたイベント

第4回いなわしろフェスティバル秋 国立磐梯青少年交流の家

令和2年10月18日

磐梯山の麓にある国立磐梯青少年交流の家で行われる交流イベント「いなわしろフェスティバル」が開催され、記念館でも体験ブースを作り参加しました。

新型コロナウイルスの影響で、事前予約制、人数制限などの対策のとりながら、約100家族、500名の方がイベントに参加されました。

今年の体験メニューは英世だるまの絵付けです。9cmの英世だるまは、英世の髪形を模した特別製のオリジナルだるまです。顔の表情や洋服などをマジックやペンで描き、世界にひとつの英世だるまを作ってもらいました。スーツ姿の英世だるま、白衣姿の英世だるまなどオーソドックスなものからとてもカラフルな英世だるままで、みなさん趣向を凝らして楽しんでくださいました。

イベント自粛が続いたなか、参加者の笑顔にふれることができるイベントとなりました。



英世だるまの絵付け

道の駅で記念館をPR

道の駅猪苗代

令和2年12月

猪苗代・磐梯高原の観光の玄関口「道の駅猪苗代」に猪苗代を代表する人物として野口英世のタペストリーがフードコート横の廊下に設置され、訪れた方をお迎えしています。フードコートにも野口英世を紹介するパネルや、当日のおすすめメニューを記念館広報大使ヒディがご案内するパネルが設置されました。



千円札の顔出し撮影スポット

また、観光情報コーナーには記念館のPRとして千円札の顔出しパネルが設置されました。野口英世になりきってお札の一部になって写真を撮ることができます。

道の駅猪苗代は記念館より車で5分の近距離ですので、記念館からの帰りにお立ち寄りください。



野口英世がお出迎え

出前授業に行きます！

野口英世記念館では、修学旅行で野口英世記念館の見学を予定している小・中学校の児童・生徒の皆さんへ、野口英世の生涯と業績をわかりやすくお話する出前授業を行っています。

令和2年度は、155校の皆さんに出前授業を行いました。いずれの学校でも、皆さんが熱心に話を聞いてくださいました。たくさんいただいたお礼のお手紙の中から、7通を選んでご紹介します。



宮城県仙台市立木町通小学校 6年
秋葉 玲さん

人だなあと感じました。

私が一番印象に残っていることは、「科学の発展にすべてをささげ、人類のために生き人類のために死す」という言葉です。野口英世は、世界の人達のために全力を尽くして研究をしていたということがわかりました。みんなからいじめられても左手が動かなくなっても、人々の支えもあつて細菌学者として活躍した野口英世は、本当にすごい人だと思います。

私の夢は看護師になることです。今回の貴重なお話を忘れずに、野口英世のようにあきらめないで努力しつづけようと思います。

先日はお忙しい中、おこしいいただきありがとうございます。
三度もノーベル賞候補になった野口英世は、たくさんの努力をして世界的に有名になり、すごい



新潟県新潟市立江南小学校 6年
遠藤 茉桜さん

この度は、野口英世の生涯や記念館のお話をありがとうございました。

お話を聞いていて、実際の母シカの愛の手紙や野口英世が住んでいた家を見てみたい！と思いました。野口英世記念館に行くことが楽しみです。

野口英世の身長や体重が私たちと同じくらいだと知り、おどろきました。また、左手の手術が成功しても、不自由さは残るだろうに、研究に一生懸命な姿を知り、感動しました。私も野口英世がこんな有名でノーベル賞こうほになるほどすごい医学者になったのは、母シカや小林栄先生などの周りの支えがあったからだと分かりました。

自分の命の危険をとまなつてまで黄熱病で苦しんでいる人のもとへ行くことや、つらいのに自分の死の直前まで、仲間の体の心配をする野口英世の姿に、優しさと誠実さが伝わってきました。

野口英世のメッセージを生かして、これからをがんばります。

宮城県仙台市立高砂小学校 6年

工藤 七夏さん



今回は、野口英世についてくわしく・わかりやすいお話をありがとうございました。

野口英世は、左手が不自由だったとしても「人の2倍、3倍努力をすれば、とてもすごい人になることだってできる」ということを改めて実感させてくれました。

私も、将来の夢に向かって野口英世のようにたくさん努力をして、がんばっていこうと思います。

今回は、本当にありがとうございました。「野口英世記念館」へ行くのが楽しみです。

宮城県富谷市立明石台小学校 6年

佐藤 奈実さん



今日は、野口英世のお話をありがとうございました。

私は、野口英世のことを「お医者さんのすごい人」くらいしか知りませんでした。でも、今日のお話の中の左手の手術のことを聞いて「どれほど痛かったんだろう。それに耐えられるほど左手の自由がうれしかったのかな」と、自分なりに考えることができました。ただ「すごい人」ではなく、「努力を続けて人々を助けた人」が野口英世なんだなと思います。床柱に彫った決意文で、とても強い人だと思いました。

私は、そんなに大きな目標がありませんが、今日のお話で努力してがんばろうと思いました。野口英世のようにすごい人になることだけがいいのではなく、努力を続けることがとてもいいことだと思います。私も見習って、いつか自分の夢をかなえたいと思います。そして、野口英世のように

人が喜ぶ何かをできたらいなと思います。今日のお話からいろいろと考えることができました。お話をしてくれて、本当にありがとうございました。

埼玉県川島町立伊草小学校 6年

高橋 太一さん



先日は、野口英世の生涯と合わせて人権についてのお話をありがとうございました。とてもわかりやすかったです。

野口英世は、体のことや人種のことでもひどい差別をうけてきたけれど、それでもあきらめずに立ち向かっていき、すごい成果を残しました。自分もこれから野口英世のように、自分に自信を持っていろんなことに立ち向かっていきたいです。

お話の中で、ぼくたち六年生にエールをもらい、たくさんのことを学べたので、これからの人生に役立てていきたいです。

埼玉県蓮田市立黒浜北小学校 6年

野口 乙葉さん



先日は野口英世の出前授業で、いろいろとお話いただきありがとうございました。

私の名字は「野口」で、伝記も読んだことがありましたが、野口英世については知らないことがたくさんあったので、知るよい機会となりました。私が、特に野口英世はすごいなあと思ったことがあります。それは、東京に行く前、猪苗代の実家に帰ってきたとき、柱に「志を得ざれば再び此地を踏まず」と記したところです。医者にならなきゃ帰らない！という英世の夢をかなえたいという強い思いがひしひしと伝わってきました。

私も夢をかなえるために、強い思いを持っていたいです。また、野口英世はたくさんの人々に支えられながら生きてきたと私は思いました。野口英世のように、人々を大切に、感謝を持ちながら生きていきたいと思います。

福島県本宮市立本宮まゆみ小学校 6年

渡邊 詩織さん



先日は、出前授業に来てくださりありがとうございました。

私は、昔からおばちゃんやお母さんに野口英世のことをよく教えてもらっていましたが、この授業で、実は海外でも、とても信頼されていることを初めて知りました。しかも、いろいろな国の言葉もしゃべれたなんて、とても努力をしていたということがわかりました。

野口英世が研究していた病気で自分自身もかかってしまったことは、とてもかわいそうなことです。でも、これまでやってきた事はとてもすばらしいし、福島県にも大きないきょうをもたらしています。

私は、早く野口英世記念館に行きたいと思いました。



出前授業の様子

令和2年度に出前授業を行った学校は次の通りです。

福島県

会津美里町立新鶴中学校
会津若松市立河東学園小学校
いわき市立上遠野小学校
川俣町立川俣小学校
喜多方市立堂島小学校
北塩原村立第一中学校
郡山市立金透小学校
郡山市立郡山第六中学校
玉川村立玉川中学校
平田村立蓬田小学校
福島市立三河台小学校
三春町立三春小学校
本宮市立本宮まゆみ小学校
矢吹町立善郷小学校

宮城県

石巻市立開北小学校
石巻市立釜小学校
石巻市立向陽小学校
石巻市立中津山第一小学校
石巻市立広測小学校
石巻市立万石浦小学校
石巻市立湊小学校
石巻市立和測小学校
大崎市立古川第一小学校
大郷町立大郷小学校
角田市立角田小学校
加美町立鳴瀬小学校
加美町立東小野田小学校
加美町立広原小学校
川崎町立川崎小学校
川崎町立川崎第二小学校
川崎町立前川小学校
気仙沼市立九条小学校

気仙沼市立気仙沼小学校
気仙沼市立鹿折小学校
気仙沼市立月丘小学校
塩竈市立月ヶ丘小学校
白石市立白川小学校
白石市立深谷小学校
白石市立福岡小学校
白石市立愛子小学校
仙台市立市名坂小学校
仙台市立大沢小学校
仙台市立岡田小学校
仙台市立沖野小学校
仙台市立北仙台小学校
仙台市立木町通小学校
仙台市立国見小学校
仙台市立黒松小学校
仙台市立幸町南小学校
仙台市立鹿野小学校
仙台市立将監小学校
仙台市立高砂小学校
仙台市立高森東小学校
仙台市立立町小学校
仙台市立立鶴谷小学校
仙台市立寺岡小学校
仙台市立立通町小学校
仙台市立中野栄小学校
仙台市立西多賀小学校
仙台市立東宮城野小学校
仙台市立袋原小学校
仙台市立松森小学校
仙台市立宮城野小学校
仙台市立八乙女小学校
仙台市立連坊小路小学校
仙台市立若林小学校

大和町立鶴巣小学校
富谷市立明石台小学校
登米市立石越小学校
登米市立石森小学校
登米市立登米小学校
登米市立錦織小学校
登米市立西郷小学校
登米市立南方小学校
名取市立館腰小学校
名取市立ゆりが丘小学校
東松島市立赤井小学校
東松島市立鳴瀬桜華小学校
東松島市立矢本西小学校
美里町立青生小学校
美里町立北浦小学校
美里町立不動堂小学校
美里町立小牛田小学校
南三陸町立戸倉小学校
南三陸町立名足小学校
村田町立村田小学校
山元町立坂元小学校
山元町立山下第一小学校
利府町立利府小学校
亘理町立吉田小学校
亘理町立亘理小学校
新潟県
小千谷市立和泉小学校
加茂市立石川小学校
加茂市立須田小学校
三条市立上林小学校
新発田市立猿橋小学校
胎内市立黒川小学校
胎内市立中条小学校
燕市立小池小学校

燕市立吉田南小学校
長岡市立信条小学校
新潟市立五十嵐小学校
新潟市立茨曾根小学校
新潟市立金津小学校
新潟市立上所小学校
新潟市立上龜田小学校
新潟市立葛塚東小学校
新潟市立江南小学校
新潟市立小瀬小学校
新潟市立新津第三小学校
新潟市立濁川小学校
新潟市立巻南小学校
見附市立上北谷小学校
村上市立岩船小学校
村上市立山辺里小学校
村上市立村上小学校
埼玉県
川島町立伊草小学校
川島町立つばさ北小学校
久喜市立上内小学校
久喜市立久喜小学校
久喜市立小林小学校
幸手市立さかえ小学校
白岡市立菁我小学校
草加市立長栄小学校
草加市立谷塚小学校
蓮田市立黒浜北小学校
三郷市立新和小学校
三郷市立瑞木小学校
栃木県
足利市立坂西北小学校
宇都宮市立上河内東小学校
宇都宮市立城山東小学校

宇都宮市立姿川中央小学校
宇都宮市立豊郷南小学校
鹿沼市立粟野小学校
鹿沼市立板荷小学校
鹿沼市立加園小学校
鹿沼市立南押原小学校
上三川町立北小学校
上三川町立本郷北小学校
上三川町立本郷小学校
佐野市立赤見小学校
佐野市立あそ野学園義務教育学校
佐野市立大伏東小学校
高根沢町立阿久津小学校
栃木市立大宮南小学校
栃木市立国府北小学校
日光市立今市小学校
茂木市立須藤小学校
山形県
山辺町立山辺小学校
群馬県
吉岡町立明治小学校
茨城県
土浦市立大中等教育学校
東京都
江戸川区立新堀小学校
江戸川区立西葛西小学校
淑徳中学校

令和2年度の受け入れ資料

○第2回竹馬会記念写真 (福島県・小林英男氏)



野口英世の恩師・同窓生たち

大正5年8月に行われた第2回竹馬会の記念写真。恩師として小林栄・筒井千吾両先生が出席し、英世の級友12名が参加している。

竹馬会は猪苗代高等学校での英世の同窓生による会で、前年の大正4年に英世が帰国した際に結成され竹馬会と名付けられました。

○野口イヌ写真 (福島県・懸田弘訓氏)

昭和35年4月7日に撮影された野口英世の姉イヌさんのスナップ写真。イヌさんが生家周辺で作業をされている姿が写されています。



野口英世の姉・イヌ

○野口英世・ウイルス学等関連書籍

第21回野口英世記念医学賞を受賞された甲野禮作氏の蔵書。

(東京都・甲野桃子氏)



甲野禮作氏著書

○丹実著野口英世研究誌 (福島県・穴澤咏光氏)

野口英世の研究者であった丹実氏の自家出版本。野口論考の翻刻。

○野口英世記念館絵はがき (東京都・高野 宏氏) ○CD「野口英世への母の手紙」 (福島県・荒 武敬氏)

福島県南相馬市を拠点に活動する合唱団・原町メンネル・コールによる歌唱。女性の独唱と男声合唱として作曲された合唱曲。

○軍艦八雲船員記念写真関連新聞記事

(千葉県・梨子本雅秋氏)

野口英世と軍艦八雲の船員で翁島村出身の梨子本与吉と一緒に撮影された記念写真が梨子本氏宅で見えられたときの新聞記事。

○日新館発行絵はがき (福島県・菊田文武氏)



野口英世の生家と記念碑

本年も多くの資料寄贈・情報提供をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。今後資料などの情報がありましたらご一報いただきたくお願いいたします。

令和2年

4月1日	自動券売機導入	10月24日・11月1日・7日	ナイトミュージアム開催
4月1日	野口英世記念会報第65号刊行	11月9日	第144回野口英世博士誕生祭
4月11日～5月24日	新型コロナウイルス感染症拡大予防の為臨時休館	11月9日	第26回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式
5月17・18日	監事監査（書面）	11月9日	第59回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式
5月20日	第1回資金運用委員会（書面審議）	11月28日	奨学生選考委員会
5月21日	第92回野口英世博士命日祭	12月6日	第19回母から子への手紙コンテスト表彰式
5月25日～3月18日	渡米120年記念特別展「野口英世世界の舞台へ」開幕		於学びいな
6月6日	第1回理事会（書面審議）	12月29日～1月3日	年末年始休館
6月18日	緑小学校緑の少年団 花プランター寄贈	1月8日	荒天のため臨時休館
6月21日	第1回評議員会	1月14日	団子さし
7月4日	野口英世記念医学賞選考委員会（オンライン）	2月3日	節分豆まき
7月16日～3月18日	緊急特別展「感染症世界大流行の歴史」開幕	2月26日	第2回資金運用委員会
8月9日	救世観音祭礼	3月6日	第3回理事会（オンライン）
9月9日	野口英世博士顕彰記念小学校体育祭	3月21日	第2回評議員会
10月1日	於猪苗代町運動公園		
10月12日	野口英世博士顕彰記念小中学校音楽祭		
	於学びいな		
	野口英世博士顕彰記念少年科学賞審査会		
	於至誠館		
10月18日	第4回いなわしろフェスティバル秋		
	於国立磐梯青少年交流の家		
10月20日	第2回理事会（書面審議）		



令和3年度 主な行事予定

令和3年

3月20日～令和4年3月

東北DC特別展「野口英世の宝物」開幕

企画展「感染症 世界大流行の歴史」

第93回野口英世博士命日祭

野口英世博士顕彰記念中学校球技大会

第1回理事会

第1回評議員会

救世観音祭礼

奨学生懇親会・令和3年度奨学生証贈呈式

野口英世博士顕彰記念小学校体育祭

野口英世博士顕彰記念小中学校音楽祭

第145回野口英世博士誕生祭

第27回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式

第60回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式

第64回野口英世記念医学賞授賞式

第20回母から子への手紙コンテスト表彰式

令和4年

団子さし

節分豆まき

野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会

第2回理事会

第2回評議員会

出前授業に行きます！

科学者 野口英世の魅力をお話します。

野口英世記念会の職員が修学旅行・遠足などで来館される小・中学校に出かけて、野口英世の生涯と研究業績を、スライドを使ってわかりやすくお話しします。経費はすべて当会が負担します。

出前授業のお申込みは、ホームページの「出前授業申込書」をダウンロードして、必要事項を記入のうえFax(0242-23-7122)してください。

寄付のお願い

日頃より公益財団法人野口英世記念会の事業にご理解、ご支援を頂きまして、心より感謝申し上げます。

野口英世記念館は平成27年4月1日にリニューアルいたしました。野口英世の生涯と業績の展示をわかりやすく一新するとともに、野口英世が挑んだ細菌の世界を、ゲームやクイズで体験していただくコーナーを新設しました。多くのお客様に是非一度ご来館いただきたく、お待ち申し上げます。

この度の新展示館のオープンを機会に、野口英世の生涯と業績をより多くの人に広く知っていただくため、職員一同一層の努力をいたします。

つきましては、皆様には野口英世記念会の活動に重ねてご理解とご支援を頂き、ご寄付を賜りますようお願いもうしあげます。

公益財団法人野口英世記念会

寄付の申込方法

- 「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。お申し込みは随時受け付けます。
- お申し込みをいただきましたら、野口英世記念会から郵便振込用紙をお送りします。振込手数料は野口英世記念会が負担します。
- 寄付金の額は、一口3,000円をお願いします。
- ご寄付いただいた寄付金は税法上の優遇措置として「所得控除」の対象となります。寄付金の額から2,000円を引いた額を当該年度の所得から控除できます。ただし、年間総所得額の40%が限度です。
- ご寄付の特典については、ホームページをご覧ください。
- ご寄付を頂いた方は寄付者銘板に芳名を掲載します。掲載を希望されない方はお申しつけ下さい。



寄 付 申 込 書

寄付金額 金 円

ふりがな	
氏 名	印
住 所	〒
電話番号	
E-mail	@

◎ ご記入いただきました寄付申込書は、下記事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。

事務局

公益財団法人 野口英世記念会

〒969-3284 福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81番地

TEL:0242-85-7867

FAX:0242-23-7122

E-mail:office@noguchihideyo.or.jp

野口英世記念館案内

【設立】

1939年（昭和14）5月21日 開館
1954年（昭和29）
福島県第1号登録博物館

《ご利用案内》

開館時間

4月～10月
午前9時～午後5時30分
11月～3月
午前9時～午後4時30分

ただし最終入館は閉館30分前まで

休館日

年末年始（12月29日～1月3日）

入館料金

○個人料金

大人 800円

子ども（小中学生） 400円

○団体料金（20名以上）

大人 700円

子ども 300円

○学生団体（学校引率）

小中学生 300円

大学・高校・各種学校 500円

【沿革】

1928年（昭和3）5月21日野口英世博士が西アフリカで殉職した翌月、日本工業倶楽部で行なわれた追悼会に際し、「野口英世博士記念会」（記念会）が設立された。

記念会は、翌年に生家の保存と二つの記念碑を建立、1938年（昭和13）には、文部大臣より財団法人の設立が許可され、その翌年の博士の命日に「野口英世記念館」が開館した。

記念会は、2013年（平成25）4月、公益財団法人に移行し、2015年（平成27）4月には、新展示館をリニューアルオープンした。

2019年（平成31）3月、生家が国の登録有形文化財に登録された。

お問い合わせ

福島県耶麻郡猪苗代町三ツ和字前田81

電話 0242（65）2319

ホームページ

<https://www.noguchihideyo.or.jp>

野口英世記念会報 第66号

公益財団法人野口英世記念会

発行日 2021年4月1日

発行人 竹田 美文

編集人 森田 鉄平

〒969-3284

福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81

公益財団法人野口英世記念会

電話 0242（85）7867

FAX 0242（23）7122

E-mail office@noguchihideyo.or.jp



公益財団法人 野口英世記念会